

2016年度の山口大学の国際交流活動



2017年3月

山口大学国際戦略室



目次

| | |
|---|-----------|
| はじめに..... | 1 |
| 第1章 2016年度の国際戦略室の活動..... | 3 |
| 1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2016年度の国際戦略室の活動..... | 3 |
| 2. 国際戦略室..... | 23 |
| 3. 国際交流協定..... | 23 |
| (1) 2016年度の国際交流協定の締結等..... | 23 |
| (2) 大学等間国際交流協定..... | 24 |
| (3) 部局等間国際交流協定..... | 28 |
| 4. 海外拠点..... | 30 |
| 5. 本部への海外からの来訪者..... | 31 |
| 6. 本学学長の海外訪問..... | 33 |
| 7. その他..... | 34 |
| (1) 国際会議, 国際シンポジウムの開催..... | 34 |
| (2) 政府開発援助 (ODA) との連携..... | 34 |
| (3) 研究者の交流..... | 39 |
| (4) 職員の研修..... | 40 |
| (5) 学内の国際化推進体制の整備..... | 41 |
| 第2章 2016年度の留学生部門の活動..... | 42 |
| 1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2016年度の留学生部門の活動..... | 45 |
| 第3章 2016年度の学術研究部門の国際交流活動..... | 50 |
| 1. 独立行政法人日本学術振興会助成..... | 50 |
| (1) 二国間交流事業..... | 50 |
| ①【大学院医学系研究科 中村教泰教授】..... | 50 |
| ②【大学院創成科学研究科 (理学系) 綱島亮准教授】..... | 50 |
| (2) 外国人特別研究員..... | 51 |
| ①【大学院創成科学研究科 (工学系) 兵動正幸特命教授】..... | 51 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| ②【大学院創成科学研究科（工学系） 兵動正幸特命教授】 | 52 |
| ③【大学院創成科学研究科（理学系） 川俣純教授】 | 52 |
| ④【大学院創成科学研究科（工学系） 小柴満美子准教授】 | 53 |
| (3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業 | 53 |
| 【大学院創成科学研究科（工学系） 合田公一教授】 | 53 |
| (4)研究拠点形成事業..... | 54 |
| ①【大学院創成科学研究科（農学系） 山田守教授】 | 54 |
| ②【大学院創成科学研究科（工学系） 三浦房紀特命教授】 | 56 |
| 第4章 2016年度の各部局の国際交流活動 | 59 |



はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、固いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築しています。こうした体制のもと、2015年に国際総合科学部を設置し、高いコミュニケーション能力の修得のため、また異文化に対する感受性及び社会的意識を涵養するため学生の海外留学を原則必修化し、海外の協定校に多くの学生を派遣しています。同時に海外協定校からも多くの交換留学生を受け入れることで、本学の「ダイバーシティ・キャンパス」を着実に推進しています。2016年6月からは、新たに「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、本学グローバル化に向けた学長のリーダーシップがより発揮できる体制を構築いたしました。学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取組を2016年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局ごとの国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2016年度の山口大学の国際交流活動



第1章 2016年度の国際戦略室の活動

1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2016年度の国際戦略室の活動

○ 重点連携大学報告会を実施

6月7日（火）と6月20日（月）の2日間、岡学長はじめ、副学長、シニア URA、国際戦略室主事らの参加のもと、重点連携大学との共同研究についての報告会を開催しました。

山口大学は、2013年10月に、学術交流協定校の中から研究力向上につながる海外の6つの大学を「重点連携大学」として選定し、財政的支援を含むバックアップを行うことによって、研究における海外協定校との連携強化を推進するとともに、大学全体のレベルアップと世界大学ランキングの順位上昇を目指しています。

この度は例年の活動報告とあわせて、これまでの3年間の活動状況に基づき、各研究プロジェクトの中間評価のためのヒアリングも実施しました。

報告会では、「重点連携大学」事業のもと共同研究を行ってきた7つの研究チームが、3年間の活動内容とその成果、今後の展望等について報告を行いました。各研究チーム代表者からは、重点連携大学の研究者との共著論文の発表状況に加えて、外部資金の獲得状況や大学院生等を含めた研究者の交流状況について、報告が行われました。また、これまでの業績を踏まえた今後の研究連携の発展についても、展望が述べられました。

報告後の質疑応答では、学長、副学長らから多くの質問がなされ、発表者との間で活発な意見交換が行われました。特にシニア URA からは、共同研究内容の他分野への応用や研究促進のための大学の支援について、具体的な提案が行われました。

山口大学は、今後4年間で重点連携大学を10大学以上とし、大学の国際研究力を強化することを目標としています。本学の研究分野での強みを、重点連携大学事業を通じてグローバルに発展させ国際社会へ貢献すると共に、地域や学生の皆さまにとって魅力のある大学となるよう、取り組んでまいります。

報告が行われた重点連携大学とのプロジェクトは以下のとおりです。

| 報告者 所属・職・氏名 | 相手先大学名 | プロジェクト名 |
|------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 教育学部 准教授・上原 一明 | 淡江大学（台湾） | 東アジア的文化アイデンティティ構築におけるメカニズムの解明に向けて |
| 創成科学研究科（工） 教授・上村 明男 | UCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）（イギリス） | UCL との連携活動（有機化学分野を中心に） |
| 創成科学研究科（農） 教授・山田 守 | カセサート大学（タイ） | 熱帯性環境微生物資源の開発研究 |
| | チュラロンコン大学（タイ） | |

| | | |
|-------------------------|--------------------------------|---|
| 共同獣医学部 准教授・谷口 雅康 | チュラロンコン大学 (タイ) | ゾウの精子形成解明と異種間での体細胞クローン胚作製 |
| 医学系研究科 講師・木村 和博 | UCL (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン) (イギリス) | Development of International Scientific Leaders to Ophthalmology at UCL-YU international exchange |
| 創成科学研究科 (工) 教授・三浦 房紀 | ウダヤナ大学 (インドネシア) | 国際共同教育, 共同研究による衛星リモートセンシング人材育成 |
| | UCL (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン) (イギリス) | 文理融合による防災研究の新しい展開 |



○ 山口大学「山口国際協力の里」特別講演会 「台湾の歴史と日台関係」を開催しました

6月10日(金), 本学吉田キャンパス共通教育棟11番教室において, 公益財団法人交流協会台北事務所代表の沼田幹夫氏(交流協会台北事務所は台湾における日本大使館に相当する機関であり, その代表である沼田氏は実質的な大使に相当)を講師としてお招きして山口大学「山口国際協力の里」特別講演会「台湾の歴史と日台関係」を開催し, 学生や教職員, 自治体関係者など約70名が参加しました。

始めに岡学長から「現在本学は国際総合科学部を中心に台湾との交流が活発化しており, 本日の沼田代表の講演をきっかけに, 本学を含めた県全体と台湾との交流が今後ますます発展することを期待したい」と開会の挨拶が述べられました。

続いて, 沼田代表による講演が行われ, 台湾の歴史と現状を台湾の対日感情と絡め, 外交そのものに関して語られました。特に, 日本と台湾の交流の歴史に関しては, 教育・医療・インフラ整備等, これまでの台湾の発展に日本が大きく貢献しており, その中で, 特に教育の発展に貢献した山口県出身の榎取道明や井原順之助の活躍を礎に, 山口県と台湾との交流は今日も引き継がれていることが紹介され, 出席者の大きな関心と呼んでいました。

その後, 外交とは本来, 国同士の関係がフィフティーフィフティーであることが紹介されました。それは時に世論によって大きく左右されるものであり, その具体的な例として, 当時のアメリカ国民の声が政治判断を180度転換させた, 過去の李登輝氏(元

台湾総統)による訪米の事例が紹介され、国民全体が外交を動かし、ひいては国家間の関係を改善に向かわせるものであると沼田代表は熱く語られました。

また、台湾の50%近くの人が「一番好きな国は日本である」と答えた近年のアンケート結果から、今日の日台関係は良好であり、日台関係は今後、我が国にとって経済的にも文化的にも非常に重要なものであると語られました。

講演の後に行われた質疑応答では、台湾に留学予定の学生の質問に対し、沼田代表が「あなたが台湾に留学し、そこで出会う人たちは、あなた自身を通して日本を見る。それはつまり、あなたは日本の代表という事であり、立派な外交官である。」と語られ、多くのことを台湾で学び、現地の人と様々な交流を持つことが、今後の日台関係、ひいてはその他の多くの国々と我が国の交流の発展に資することになるとの、期待を込めた強いメッセージが送られました。

本学では、昨年度設置した国際総合科学部の学生がこの秋から台湾の大学との交換留学をスタートさせることに伴い、台湾の大学との交流が益々活発になります。今回の講演会をきっかけに、本学は今後も学術、文化等、様々な点で台湾との交流を促進し、台湾との関係深化に努めます。



○ 山東大学からSD研修生を受入

8月1日(月)から5日(金)まで、本学の協定校である中国・山東大学から、SD(スタッフ・ディベロップメント)研修として財務部副部長の何維興氏、山東大学齊魯医学部人事部副部長の張乃亭氏の2名を受け入れました。

本学と山東大学は、1983年に互いに初めての協定校として学術交流協定を締結し、その後1998年に学生交流に関する附属書を締結しました。それ以来、両校は協定校として今日まで多種多様な交流を継続して実施しており、交流の一環として2008年からは事務職員を研修生として相互に派遣し、相手大学の管理運営方法を学び、比較することで所属大学の管理運営における課題の把握、管理運営業務の改善に役立てています。

今回の研修では、本学の教員評価体制や、財務会計システム、競争的研究資金の管理状況等について本学職員に対してインタビューが行われるとともに、9月に山東大学へSD研修として派遣予定の職員や国際総合科学部の職員、山口大学基金事務局の職員らと意見交換を行い、中国での渡日前入試や国際総合科学部との交換留学、寄付金の活用等について有意義な議論が行われました。

また、1982年に山口県と山東省が友好協定を締結したことを契機に、県内・省内の各自治体が相互に友好協定を締結し、交流を行っていることから、山口県及び山口市への表敬訪問も行い、意見交換を行いました。

研修を終えた何氏からは「日本の大学の規則は、細かなところまで定められており、また、職員の方々もその規則を順守しており、大変驚いた。山東大学でも規則の順守を徹底していきたい。」との感想がありました。

本学では、今後も、このような交流を行うことで山東大学との緊密な連携を図るとともに、職員の職務上必要な知識、能力の向上のために、山東大学と協力し、SD研修を実施していきます。



○ 群山大学校長及び忠北大学校長が、山口大学を訪問しました。

平成28年8月19日（金）、群山大学校（韓国）のNa学長他4名の教職員が本学岡学長を表敬訪問し、両大学の今後の交流計画について懇談を行いました。この訪問に先立ち、群山大学校訪問団は今年7月にオープンしたYUシェアハウス（留学生寮）を訪問しており、このことについてNa学長から、「たいへん魅力的な学生寮であり、この施設は山口大学が多くの留学生を獲得することに貢献するだろう」との感想が述べられました。懇談では特に、学生交流に関する意見交換が行われ、群山大学校からは、「これまで20名以上の学生が山口大学で学んでおり、今後は、是非山口大学の学生にも群山大学校に来て頂き、本学で学んでほしい」との要望が述べられました。

また同日、忠北大学校（韓国）のYun学長他8名の教職員が岡学長を表敬訪問し、工学部と部局間協定を締結し実施している両大学の交流について、学生交流や研究者交流に渡るこれまでの実績を確認しました。加えて、今後は両大学の交流を全学での交流に発展させることについて、意見交換が行われました。

忠北大学校では、今年12月にCEDC（Creative Engineering Design Competition：創成工学デザイン協議会）の開催が予定されており、Yun学長から、この大会に岡学長も出席し学生の研究の成果を共に見届けることについて、依頼の言葉が述べられました。

今回の両大学長の訪問は、日中韓の大学生が交流し共にものづくりを体験するSP!ED（Summer Program for Innovative Engineering Design：工学系サマープログラム）のオープニングセレモニー出席に合わせて実現されたものです。

今後も、こうした国際的な学生交流プログラムを参加大学全体で認知し推進していくことを通じて、本学は、協定校である群山大学校及び忠北大学校との実り多い交流を実現してまいります。



○ 第3回重点連携大学セミナーを開催



8月19日(金)、第3回重点連携大学セミナー"Science and Technology for Innovations" をカセサート大学(タイ王国)で開催しました。

本セミナーは、本学が指定する重点連携大学と共同で実施するもので、カセサート大学の Assist. Prof.

Ratchot Chompunich (Acting Vice President for

strategic development and organizational communication)による開会の辞に続いて、創成科学研究科の山田守教授から重点連携大学制度の概要説明があり、3重点連携大学(山口大学・カセサート大学・チュラロンコン大学)から10題の口頭発表がありました。山口大学からは他に松井健二教授・薬師寿治准教授(ともに創成科学研究科)、共同獣医学部の日本側共同研究者として東亜大学の佐藤陽子教授、タイ側から Prof. Theeraphap Chareonviriyaphap(カセサート大学農学部), Assoc.Prof. Prachu mporn Kongsaree, Assoc. Prof. Arinthip Thamchaipenet, Dr. Noppon Lertwattanasakul(カセサート大学理学部)と Assist. Prof. Kuakarun Krusong, Dr. Chompoonik Kanchanabanca(チュラロンコン大学理学部)の国際共同研究による成果発表と、来場した研究者との関連部分における質疑もあり、国際共同研究の進展が確認されました。



○ 在タイ日本国大使館セミナー「発酵生産のための新技術セミナー」を開催しました



9月20日（火）、在タイ日本国大使館（バンコク）において、「発酵生産のための新技術セミナー（主催：山口大学・カセサート大学）」を開催しました。

本セミナーは、本学農学部を中心に、平成10年度に「拠点大学交流事業（JSPS-NRCT）」として開始し、「アジア研究教育拠点事業（JSPS-NRCT）」、「科学技術戦略推進費事業（MEXT-ARDA）」、平成26年度からは「研究拠点形成事業（JSPS-NRCT-MOST等）」として継続してきた国際拠点事業及び国際共同研究の成果として開発した、熱帯性環境微生物を用いたバイオマスからの有用物質生産、特にバイオ燃料生産に関する次世代型新技術をタイ企業及び在タイ日本企業に紹介することを目的に開催したもので、本学及びカセサート大学等の大学研究者、そして、タイ企業及び在タイ日本企業の担当者ら75名が参加しました。

開会式では、初めに、在タイ日本国大使館特命全権大使の佐渡島志郎閣下から、「このセミナーが両国の産業および学術の発展に貢献することを信じている」と期待の言葉が述べられました。



続いて、カセサート大学の Lily Kaveeta 教務担当副学長代行、本学の堀理事、タイ農学研究機構（ARDA）の Panpimon Chunyanuwat 事務局長から歓迎の言葉が述べられ、その後、日本学術振興会バンコク研究連絡センターの山下邦明センター長及びタイ学術会議（NRCT）の Yossavadee Ungvichian 顧問から、開会の辞が述べられました。

開会式に続くセミナーでは、初めに、生物多様性経済開発事務所の Napavarn Noparatnaraporn 上級専門員から、両国政府関係機関の支援による共同研究成果として、数多くの研究発表論文、若手研究者の育成及び民間企業との事業化試験が行われたことが報告されました。

引き続き、本学の松下一信教授（特命）、山田守学長特命補佐及びカセサート大学の Gunjana Theeragool 准教授ら11名の大学研究者から「バイオ燃料生産に関する次世代新技術」に関する研究成果が紹介され、企業側からは、研究成果に関連した具体的な研究事例や事業展開の可能性などについての発言があるなど、今後の共同研究や事業展開に対する活発な意見交換が行われました。

最後には、本学の富本幾文副学長補佐が閉会の辞を述べ、産学連携共同研究に発展する研究成果を確認した後に、セミナーを終了しました。

このセミナーでは、6件の産学連携による共同研究などのマッチングが行われたこともあり、研究成果の事業化、さらには両国の社会貢献に向けた、とても有意義な機会となりました。

本学では、今後も両国の社会経済の発展と友好親善に寄与するために、一層の研究力の向上、活発な学術交流に取り組んで参ります。



○ タイ・カセサート大学の副学長代行他4名が来訪されました

9月23日(金)、タイのカセサート大学から Kampanat Pensupar 副学長代行, Sutkhet Nakasathien 農学部長, Ed Sarobol 熱帯農業学国際プログラム長, Donludee Jaisut 農学部副学部長, Monthira Phrapchin コーディネーターが吉田キャンパスを訪れました。

カセサート大学はタイで最初に創設された農科大学を前身とする総合大学で、同大の農学部はQS大学ランキングの分野別ランキングにおいて農林業学分野で47位にランクインする等、現在でも農業分野において高い水準を誇っています。本学とは、1998年7月に大学間学術交流協定を締結し、以来、研究者交流や学生交流を活発に行ってきました。今般の訪問では、これまでの交流を踏まえた上で、今後の更なる交流を見据え、様々な議論がなされました。



一行はまず、小林農学部長を表敬訪問し、懇談を行いました。これには、農学部の荊木副学部長、山田学長特命補佐、執行国際戦略室主事、荒木副農場長、伊藤教授、薬師准教授も出席し、双方の研究分野や本学農学部で平成23年度から実施している海外留学支援制度(JST)による学生派遣・受入などの学生交流について紹介するなど、今後の交流についての活発な意見交換が行われました。また、ジョイント・ディグリープログラム



の設置等に向けた話合いでは、先方から、学生への経済支援やフレキシブルなカリキュラム構成などの要望があり、今後、設置を検討していく上での貴重な時間となりました。その後、一行は農学部附属農場及び植物工場を見学し、本学農学部が行っている研究等についての理解を深めました。

続いて、一行は岡学長を表敬訪問し、懇談を行いました。岡学長からは、本学についての紹介がなされ、昨年設立された国際総合科学部について話が及ぶと、一行からはカ

リキュラムや教員構成等に高い関心が示され、岡学長をはじめ、同席した山田学長特命補佐及び富本副学長補佐（国際連携担当）から同学部のカリキュラム、同学部が目指す人材像等についての説明が行われました。その後、先方の Kampanat Pensupar 副学長代行より先方大学の紹介がなされた後、Sutkhet Nakasathien 農学部長からは、これまでの交流をもとに、一步深まった内容の交流ができればとの期待が寄せられました。

その後、一行は成富経済学部長への表敬訪問を行いました。これには富本副学長補佐、馬田経済学部教授が同席し、英語で授業が開講され、多くの留学生が学んでいる同学部の公共管理コースの紹介等がなされました。他方、先方からは研究センターのグローバルな取組みや英語で授業が開講されているインターナショナルプログラム等の紹介があり、今後の交流の可能性を模索しました。

本学は、カセサート大学を重点連携大学の一つに指定し、連携を強化しておりますが、今般の訪問を新たなきっかけとして、本学とカセサート大学との交流が、ますます発展していくことが期待されます。



○ タイ農学研究機構(ARDA)事務局長、タイ学術会議(NRCT)、カセサート大学の Gunjana Theeragool 准教授他 2 名が来学

9月23日(金)、ARDAのPanpimon Chunyanuwat 事務局長、NRCTのSukunya Theerakullert 事務局長、カセサート大学のGunjana Theeragool 准教授他2名が本学の岡正朗学長を表敬訪問しました。

ARDAは、2003年に国王令によって設立されたタイ政府農業・協同組合省内の公的研究機関であり、本学とは、2008年8月に大学等間学術交流協定を締結し、交流を行っています。これまでの共同研究においては、熱帯産の耐熱性微生物を活用したバイオ燃料、省エネ高温発酵技術の開発などで成果を上げています。また、タイ国の政策や戦略に対して提言を行う役割を担っているNRCTは、日本学術振興会をはじめ海外の研究機関等との共同研究、学術交流を積極的に行っており、本学とは研究拠点形成事業等を通じて活発な交流を行っています。重点連携大学の一つであるカセサート大学とは、農学部を中心に活発な交流が行われており、その交流は、研究者交流、学生交流、セミ

ナーの実施等、多岐にわたっています。今般の岡学長への表敬訪問では、本学の山田守学長特命補佐、富本幾文副学長補佐（国際連携担当）、松下一信教授（特命）を交え、本学とこれらの機関との交流状況についての紹介がなされるとともに、今後の交流についての議論がなされました。

懇談では、本表敬訪問に先立ち、9月20日（火）に本学とカセサート大学が主催し、在タイ日本国大使館に於いて行われた「バイオ燃料生産に関する次世代型技術セミナー」に関する報告が山田学長特命補佐及びタイ側より行われ、企業への技術移転が課題となっている中、今般のセミナーでは多くのマッチングが図られ、非常に大きな成果が得られたことが紹介されました。これに対し、岡学長より、産学が連携しての共同研究や共同事業は、本学にとって大変重要なことと位置づけており、同セミナーが成功裏に終わったことを非常に嬉しく思っているとの感想が述べられました。また、今般のセミナーが ARDA 及び NRCT の強力なサポートによって実現したことに対して、岡学長から感謝の意が伝えられました。このことに関連し、Gunjana 准教授より、岡学長が出席する、本年11月にタイのチョンブリ県で開催される研究拠点形成事業（先端研究形成型）に関連したジョイント・セミナーにも、今般のセミナーに参加した企業を招待し、更なる連携を深めていきたいとの意気込みが伝えられました。

また、本学の中高温微生物センターについて話が及ぶと、山田学長特命補佐より、同センターをタイや他のアジアの国々の研究者にも開放し、研究者育成に尽力していきたいとの発言があり、これに対し、タイ側からも、次世代の研究者を育てていくことは力を入れていきたい事項であるとの発言がありました。これまで、本学とこれらの機関は、多くのプロジェクトを通して連携を深めてきましたが、研究だけでなく、人材育成という点でも連携を深めていくことを確認し合い、懇談会は締めくくられました。今回の訪問をきっかけに、本学とタイのこれらの学術機関との交流が、ますます発展していくことが期待されます。



○ 岡学長がモスクワで開催された第6回日露学長会議に参加

10月6日（木）、日露大学間の教育・研究交流の更なる推進と、パートナーシップの強化を図ることを目的に、ロシア学長連盟と日露学長会議実行委員会の共催で、第6回日露学長会議がモスクワ国立大学において開催され、本学から岡学長らが参加しました。本会議には本学をはじめ日本から20大学、ロシアからおよそ30大学が参加しました。



会議では、ヴィクトル・A・サドーヴニチィ モスクワ大学学長、里見進東北大学総長による主催者挨拶に続き、大槻耕太郎在露日本大使館公使参事官ら来賓による挨拶が行われました。続いて、「大学と社会（現代世界の科学と教育）」というテーマで、日露の大学を取り巻く現状と課題、それぞれの大学が取り組む重点施策等についての基調講演やプレゼンテーションが参加大学学長等により行われ、本学からは岡学長が「山口大学とモスクワ大学およびモスクワ工科大学の学術交流について」と題して「本学の紹介」や「ロシアとの学術交流の拠点となっている時間学研究所の紹介」等についてプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションの最後に、岡学長は、「時間学研究所は本学の特色のある研究拠点であり、特に国際的な交流に力を注ぎ、今後もロシアの大学と広く学術交流を行うことを計画している」と発言し、時間学を中心とした本学とロシアの大学との研究連携についての展望を述べました。

さらに、会議では、2013年10月の安倍首相・プーチン大統領による首脳会談で両国は2020年までに留学生の数を今のおよそ5倍の2,000人に増やすことで合意していることを踏まえ、日本側から日本政府の財政支援を受けて、ロシアとの交流を行う大学の数を2倍に増やす計画が紹介されました。これに対してロシア側は、両国の大学が先端技術を開発するための合弁企業を設立することなどを提案し、双方は共同研究を進めるとともに、今後の日露関係を担う人材の育成に力を入れていくことを確認し、会議は終了しました。

また、岡学長は、モスクワ滞在中に山口大学名誉博士の称号授与が予定されているミカエル・アイザック・トリベルスキー教授（モスクワ大学）と懇談し、名誉博士称号授与式を行う予定であることを伝えました。なお、名誉博士称号授与式はミカエル・アイザック・トリベルスキー教授が本学来訪（10月～12月）に併せて開催する予定です。



○ 山口大学バンコク国際連携オフィスの開所式

11月16日（金）、本学協定校のカセサート大学にて、山口大学バンコク国際連携オフィスの開所式が行われ、山口大学からは、岡学長、山田学長特命補佐、富本国際連携担当副学長補佐をはじめ10名の教職員が、カセサート大学からは、Chongrak Wachrinrat 学長代行、Ladawan Puangchit 副学長代行、Supa Hannongbua 理学部長、Somwang Khantayanuwong 大学院研究科長ら18名が参加しました。カセサート大学と本学は、1998年に大学間協定を締結して以来、研究拠点形成事業等を通して活発な交流を行っており、多くの研究者、学生が行き来しています。今般、本学が重点拠点国と位置づけるタイにおいて本学の国際連携オフィスを開所するにあたり、本学との歴史が深い同大学の理学部内にオフィスをオープンする運びとなりました。

開所に先立ち行われたオフィス設置に関する協定書の調印式では、Chongrak Wachrinrat 学長代行から

「日本のみならずアジアでも有数の大学と認識している山口大学とさらに緊密な関係を構築でき非常に嬉しく思っている。本学の理学部との交流が盛んであるが、これを機会に、理学部のみならず他の学部との交流が



深まることを期待したい」との言葉が述べられました。その後、本学の岡学長の謝辞では、国王陛下のご崩御に伴い、タイ全土が深い悲しみに包まれている中、今般の開所式を挙げていただいたことへの謝意を表すとともに、国際連携オフィスを通して共同研究の促進、優秀なタイの学生のリクルーティング、同窓生との緊密な関係の構築等を目指していきたいとの決意が述べられました。同式典では、本学にとって初の試みとなるジョイント・ディグリー・プログラムの設置に向けた覚書も併せて締結され、両大学間の交流をますます深めていこうとの機運が高まる中盛会裏に終わりました。

また、カセサート大学への訪問に先立ち、11月14日（月）から15日（火）にかけてチョンブリ県で研究拠点形成事業の第二回ジョイント・セミナーが開催されましたが、本セミナーの開催に合わせて本学の名誉博士称号授与式が厳粛に挙行され、タイ科学協会の Napavarn Noparatnaraporn 会長に岡学長から名誉博士号が授与されました。

Napavarn 教授は、1989年から始まった日・タイの10年事業や日本学術振興会の拠点大学事業において、タイ側のコーディネーターとして活躍され、両国の50に及ぶ大学の微生物研究者間の交流の発展に貢献されるとともに、本学とカセサート大学との交流の発展において中心的な役割を果たされた方です。このような功績を讃えるべく、同博士に対し、本学の名誉博士号が授与されました。



いよいよ、本学の重点拠点国であるタイにおいて国際連携オフィスを活動を開始いたします。本学は、これまでに築いてきたタイの大学との交流をさらに発展させるべく、バンコク国際連携オフィスの活動やジョイント・ディグリー・プログラムの実現に向けたカセサート大学との協働を推進してまいります。



○ 山口大学（YU）とマレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院（MJIIT）が国際連携知財講座を設立しました

11月28日（月）、マレーシア・クアラルンプールのMJIITにおいて、国際連携知財講座（YU-MJIIT International Joint Intellectual Property Laboratory）設立記念式典が挙行政され、文部科学省高等教育局専門教育課の浅野敦行課長をはじめ、マレーシア教育省、在マレーシア日本国大使館、国際協力機構（JICA）などの関係機関並びに山口大学、MJIITから70余名が出席しました。

式典では始めに、MJIITのルビア院長並びに本学の堀憲次学術研究担当副学長による開式挨拶が述べられ、その後、上西研学長特命補佐（本学大学院技術経営研究科（MOT）附属アジアイノベーションセンター長）から国際連携知財講座設立の経緯や趣旨説明があり、続いて来賓挨拶があった後、MJIIT内に開設した国際連携知財講座の共同研究室において、テープカットと施設見学が行われました。



MOTは、MJIITの設立当初から日本型技術経営教育の定着に向けて、現役教員の派遣など多面的な支援やダブルディグリープログラムでのMJIITからの学生の受入、本学社会人学生の短期研修での派遣などの交流を実施しており、これまでの協働体制を基盤として、この度、本学が卓越した評価を得ている知的財産分野での共同研究室開設となったものです。国際連携知財講座の共同研究室には、JICAの円借款事業による、世界最高水準のデータインフラが導入されており、本学が共同参画することでアジア圏を中心とした知的財産を活用したビジネス研究の拠点を目指します。

また、式典に合わせてMOTが主催する国際シンポジウム「International Symposium on Asian MOT Education (ISAME) 2016 in Malaysia」が開催され、15カ国延べ200余名の研究者が出席しました。MOTは、平成27年度から4年間の機能強化プロジェ

クト「アジアイノベーションプロデューサーの育成」によりアジア圏における技術経営教育の普及と質の向上に取り組んでおり、ASEAN を中心とするアジア各国の有力大学とのプラットフォーム「アジア MOT コンソーシアム」を立ち上げ、毎年国内外で 2 回「ISAME」を主催しています。



○ 山口大学海外同窓会韓国支部が親睦会を開催

2016 年 12 月 22 日、韓国のソウル特別市において、山口大学海外同窓会韓国支部の親睦会が開催され、本学から、岡学長、三浦副学長（国際連携担当）、松田創成科学研究科教授、兵頭創成科学研究科特命教授、赤木留学生センター准教授をはじめ、8 名の大学関係者が参加しました。

山口大学海外同窓会韓国支部は 2012 年 3 月に設立された、本学 4 つ目の海外同窓会組織です。今回の親睦会は、岡学長が韓国の忠北大学校との大学間国際学術交流協定の調印式への参加等を目的とした韓国出張と合わせて実施され、平日にもかかわらず、25 名の元留学生・研究者らが集い、旧交を温めました。

会の冒頭、岡学長から挨拶があり、本学が昨年創基 200 周年を迎えたこと、国際総合科学部が設置されたこと、山口大学基金による支援が始まったことなどの紹介とともに参加者に対する感謝が述べられた後、白元珍同窓会長から、山口大学在籍当時の思い出が語られるとともに、山口大学と山口大学海外同窓会韓国支部の発展に向けて尽力していきたいとの挨拶が行われました。

その後、三浦副学長の発声で歓談が始まると、出席した本学の教職員はもちろん、久々の旧友との会話も弾む中、3 月の大学院学位授与式へ参加できなかった学生に対する学位の授与が岡学長から行われるなど、会は大いに盛り上がりました。また、白同窓会長から、同窓会長を後進へ譲りたいとの提案があり、新たに朴宰玄氏が選出され、朴新同窓会長からは、「来年以降は、1 年に 1 度は同窓会を開催し、山口大学海外同窓会韓国支部を盛り上げていきたい」との抱負が語られました。

会の終盤には、留学生らから山口大学基金への寄付が行われ、白同窓会長から「少ない金額ではありますが、留学生の支援のために活用してください」との言葉とともに、岡学長へ手渡されました。寄付金を受け取った岡学長は、「留学生が活躍できるダイバーシティ・キャンパス実現のために、大切に活用させていただきます。」との感謝の言葉を述べました。

閉会に際して、松田教授から4年間同窓会長を務められた白同窓会長へのねぎらいと朴新同窓会長への期待の言葉、参加者への感謝が伝えられ、記念撮影の後、会は盛会のうちに終了となりました。

本学は、今後も海外同窓会と連携し、ダイバーシティ・キャンパスの実現とグローバル化を推進してまいります。



○ 韓国忠北大学校との大学間国際学術交流協定を締結

2016年12月23日（金）、岡学長、三浦副学長（国際連携担当）、松田創成科学研究科教授らが、韓国忠北大学校で行われた国際学術交流協定調印式に出席し、忠北大学校からは、Yun学長をはじめ、9名が臨席しました。

忠北大学校と山口大学との交流は、1996年6月に忠北大学校工学部教員と本学工学部の教員との間で研究者交流を行ったことから始まり、2001年10月に忠北大学校工学部と本学工学部との間で、2016年8月に忠北大学校電気情報学部と本学工学部との間でそれぞれ部局間の国際交流協定が締結され、創成工学デザインサマープログラム(SP!ED)や、創成工学デザイン競技会(CEDC)、イノベーション応用研究と教育に関する国際会議(ICIARE)、また両大学の工学系研究者が参加するジョイントセミナーなどを通じて、これまで多くの学生・教職員が交流を深めてまいりました。Yun学長が2016年8月に本学で開催されたSP!EDに出席された際、同年12月に忠北大学校で開催されるCEDC&ICIARE2016への参加と大学間国際学術交流協定の締結について、岡学長に対して依頼がなされ、今回の調印式が実現しました。



式の冒頭、Yun学長から「韓国では雪は歓迎を意味しており、忠北大学校と山口大学との協定締結を、天も歓迎しています。今回の協定締結を契機に、更なる研究交流、学生交流を実施していきたい。」と歓迎の言葉が述べられ、岡学長から「山口大学は、グローバル化に力を入れていきたいと考えており、SP!EDやCEDC&ICIAREはその先駆けとなるものです。これまでの研究者交流、学生交流に対して感謝申し上げますとともに、今後も充実した交流を期待します。」と挨拶がなされました。その後、両学長による大学間国際交流協定書へ調印が行われました。

山口大学は、今後も協定校との交流をさらに充実させ、国際化を推進していきます。



○ 「インドネシアー日本：獣医学研究における連携強化のためのシンポジウム」を開催しました

1月19日（木）・20日（金）、山口大学の協定校である、インドネシア・ボゴール農科大学において、「インドネシアー日本：獣医学研究における連携強化のためのシンポジウム」が開催されました。



このシンポジウムは、ボゴール農科大学と本学大学院連合獣医学研究科との共同開催であり、本学からは三浦房紀国際連携担当副学長、佐藤宏大学院連合獣医学研究科長のほか、同研究科の構成校である鳥取大学および鹿児島大学ならびに連携機関である日本中央競馬会から教員・学生約20名が、また、インドネシア国内からは、11の獣医系大学より学部長をはじめ

とする多くの参加者があり、総勢100名を越える盛大なものとなりました。

シンポジウムでは、ボゴール農科大学 スリーハディ・アグンプリヨノ獣医学部長より歓迎の挨拶があった後、三浦副学長およびボゴール農科大学 アナス・ミフタ・ファウズィ副学長のオープニングスピーチに続き、参加14大学の紹介と41題のポスター発表が活発に行われました。

現在、ボゴール農科大学を含むインドネシア国内の獣医系大学では、本学大学院連合獣医学研究科を修了した多くの留学生在が教員として活躍しています。また、インドネシアでは毎年800名の獣医師が誕生していますが、人口2.5億人を抱えるこの国では、実際には毎年1,200名を確保する必要があるとのこと。この社会的要請に応えるため、ここ数年で4、5校の獣医系大学が設立されましたが、新たに獣医学教育を担う教員養成が当面の課題となっています。



今回のシンポジウムにおいて、こうしたインドネシア国内における次世代の教員養成に対する取り組みへの協力と日本・インドネシア両国の獣医系大学間の大学院教育連携ならびに国際連携を基盤とした共同研究を推進することを確認しました。

短い滞在期間でしたが、本学からの参加者は、インドネシアの厚い歓待に感激し、新たな絆を今後につなぐ再会を約束して帰国の途につきました。



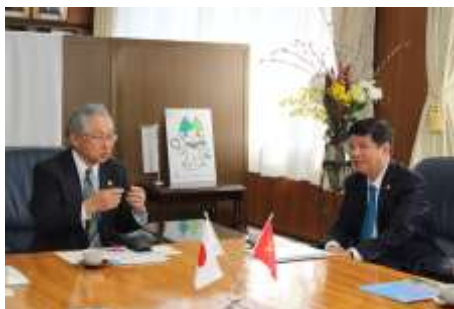
○ 駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使一行が来学

2月16日（木）、駐日ベトナム社会主義共和国大使館からグエン・クオック・クオン特命全権大使が令夫人、秘書官とともに、吉田キャンパスを訪問しました。

一行はまず、本学に留学中のベトナム人留学生と懇談を行い、山口大学に留学したきっかけ、山口大学での生活、困っていること等について学生らに尋ねられました。これに対し、学生からは、ベトナムで在籍していた大学が山大の協定校であったため山大の存在を知った、山大を卒業した先生から薦められた等のきっかけが紹介されるとともに、学習・研究環境が非常に良い山大で学べることは、とても幸運なことだと感じている等の感想が述べられました。また、本学ベトナム人留学生から「なぜ山大を訪問することになったのか」との質問がなされると、グエン大使からは、「日本全国にいるベトナム人留学生の生活、学習や研究の状況、希望などを理解するため、より多くのベトナム人留学生に会って、懇談したいと考えている。自分も妻も留学経験があり、経験を共有したいと思った」との発言がありました。懇談の最後には、駐日ベトナム大使館が、ベトナム人学生会への支援を通じてベトナム人留学生の就職活動や生活面でのサポートを行っていることが紹介され、グエン大使からベトナム人学生会の山口支部設立の提案がありました。



続いて、一行は岡学長、三浦国際連携担当副学長、富本国際連携担当副学長補佐、松田創成科学研究科教授との懇談会に臨みました。懇談会では、グエン大使から高度人材育成における二国間協力を重視しているとの発言があり、留学生受入れはもちろんのこ



と、ベトナムの大学との協定締結、研究協力も進めてもらいたいとの発言がありました。これに対し、本学側からは、ベトナム教育訓練省との協定に基づく奨学金制度をはじめ、本学とベトナムとの学術交流・連携状況が紹介されるとともに、現在、グローバル化を推進するために様々な取組みを行って

いるとの説明がなされ、ベトナムからも多くの留学生を派遣してほしいとの要望が述べられました。また、岡学長から、昨年末に行われた留学生懇談会ではベトナム人留学生が伝統舞踊を披露してくれたこと、子育てをしながら研究に励む学生、日本語が非常に上手な学生等、優秀で勤勉なベトナム人学生が多く在籍していることが紹介されると、グエン大使からは、山大で学んだベトナム人留学生は、将来、ベトナムの大学と山大との架け橋としての役割を十分に果たすことができると期待していると述べられました。

今般の一行の訪問は、ベトナムの外交関係者に本学で学ぶベトナム人留学生の活躍や本学のグローバルな取組みを紹介するとともに、日越学術交流の発展のための、有益な情報を得る場ともなりました。本学は、日越学術交流の発展に寄与できるよう、さらなるグローバル化を推進してまいります。



○ 韓国・梨花女子大学の国際担当副学長他 2 名が来学

2月27日(月)から3月1日(水)にかけて、韓国の梨花女子大学から Ihn-Hwi Park 国際担当副学長, Changhyun Yoo 大学院大気科学工学科助教, Sang-ho Ro スクラントンカレッジ韓国学科助教を招聘しました。

梨花女子大学と本学は、2010年3月に大学間学術交流協定を締結し、以来、研究者交流を活発に行ってきました。さらに、2013年10月には、研究連携の強化を図るため、梨花女子大学を重点連携大学として選定し、両大学間での共同研究に力を入れています。今般の招聘では、これまでの交流を踏まえた上で、理系分野での交流の促進及び学生交流を活発化させるため、様々な議論が行われました。

一行はまず、進士工学部長を表敬訪問し、懇談を行いました。ここでは、SP!ED といった本学工学部におけるグローバルな取組事例や梨花女子大学に新たに設置される工学系の学部が話題に上がり、両大学間の工学系分野での学生交流について模索する機会となりました。翌日に行われた工学部での国際交流に関する打合せにおいては、三浦国際連携担当副学長及びメディア基盤センターの今岡准教授と協議が行われ、JAXA や山口県と連携して行っている衛星リモートセンシングの防災への利用に関する研究の紹介が行われました。衛星データを活用した研究成果に話が及ぶと、一行は高い関心を示していました。

常盤キャンパスから吉田キャンパスに場所を移し、一行は国際総合科学部との懇談に臨みました。ここでは、レール教授をはじめとする国際総合科学部の教員と学生交流に関する打合せを行い、国際総合科学部と類似した学部である、先方大学のスクラントンカレッジとの学生交流等について協議が行われました。また本学から梨花女子大学に留学している2名の学生の留學生活の様子が紹介されました。続いて、一行は植村東アジア研究科長を表敬訪問し、同研究科についての説明を受けた後、東亜経済研究所及び商品資料館の見学を行いました。

最後に、一行は岡学長を表敬訪問し、今般の訪問の感想を述べるとともに、応用衛星リモートセンシング研究センターと連携し JAXA の人工衛星から得られたデータを活用した研究や国際総合科学部、東アジア研究科との間で学生交流を進めていきたいとの抱負を述べられました。

今般の招聘をきっかけに、本学と梨花女子大学はますます連携し、より活発な交流に発展していくことが期待されます。





○ 平成 28 年度山口大学職員海外派遣 SD 研修帰国報告会を開催しました

3月9日（木），吉田キャンパスにおいて，平成 28 年度山口大学職員海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修参加者による帰国報告会を開催しました。

平成 16 年から開始している本研修は本学の職員を海外の協定大学に派遣し実施するもので，平成 16 年度から開始され，今年で 13 年目を迎え，昨年度末現在で延べ 65 名を派遣しています。今年度は，国際化する社会に対応し，本学の国際化に貢献できる人材の育成及び本学の運営に資する人材の育成を目的として実施され，塩田客員教授による研修を含む事前研修会を 2 回実施した上で，研修者を派遣しました。一般の報告会では，今年度派遣した 8 名及び中国地区国立大学法人職員共同海外派遣研修参加者 1 名による報告が行われ，約 60 名の教職員が参加しました。



報告会の冒頭，坂本企画戦略部長が挨拶を行い，明日の山口大学ビジョン 2015 には，全ての大学人と地域の人々が，互いの歴史・文化・民族・言語・宗教などの違いを超えて，共感・共鳴・共奏できるダイバーシティ・キャンパスを目指すことが掲げられており，今年度からは，大学全体の国際化を意識し，課題解決能力，政策立案能力を培っていただくことを目的として派遣を行ったとの説明がありました。また，今年度から多数の留学生を国際総合科学部に受入れており，今後，様々なバックグラウンドを持った学生や教職員が共存できる環境を整備していく必要があるため，研修者には，本学のグローバル化の中核として，研修で得た知見を活かしてもらうことを期待したいと述べられました。

研修生からは、研修に参加した目的、研修内容、成果、提案事項等が報告され、海外オフィスへの現地常駐職員の配置、危機管理体制の学生への周知徹底、渡日前入試の拡充、留学生を活用した広報体制等様々な提案が行われました。研修参加者からの報告後には、活発な質疑応答が行われ、その場に集った教職員全体で本学のグローバル化について考える良い機会となりました。



最後に、土谷監事から「研修者の積極性、行動力に非常に感服した。研修で培った課題解決能力や提案力を現場で活かしてもらいたい」とのコメントが寄せられました。また、田中理事・副学長（地域連携、人事労務担当）からも、「海外に行き、外から山口大学を見ることで、山口大学の強みや課題に気付くきっかけとなったと思う。研修で得た気付きや成果を積極的に提案し、山口大学が変わるきっかけをつくってもらいたい」との感想が述べられました。

本学は、ダイバーシティ・キャンパスの実現に向け、グローバル人材を育成するべく、引き続き、本研修の充実を目指して参ります。



| 研修参加者 | | 派遣期間 | 派遣先 |
|------------------------|--------|------------|--|
| 企画戦略部 企画・評価課 企画係 | 本城 美怜 | 9月6日～14日 | 大連外国語大学, 山東大学, APU 上海オフィス他 |
| 経済学部 大学院係 | 石田 莉佳 | | |
| 情報環境部 学術情報課 情報サービス係 | 松原 花梨 | 11月7日～10日 | 大葉大学, 国立中興大学, 東海大学 |
| 財務部 財務課 出納係 | 清水 里美 | | |
| 教育学部 学務係 | 谷 美里 | | |
| 教育学部 学務係 | 田中 志歩 | 11月12日～19日 | チェンマイ大学, カセサート大学, シーナカリンウィロート大学, チュラロンコン大学 |
| 学生支援部 入試課 入試第一係 | 門脇 健太 | 11月13日～19日 | インドネシア大学, ガジャマダ大 学, ウダヤナ大学, APU ジャカル タオフィス |
| 総務部 広報課 広報係 | 石田 友紀子 | | |
| 学生支援部 学生支援課 副課長 | 寺西 晴美 | 5月11日～20日 | 中国地区国立大学法人職員共同海 外派遣研修 |

※所属は派遣時のもの

2. 国際戦略室

(1) 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

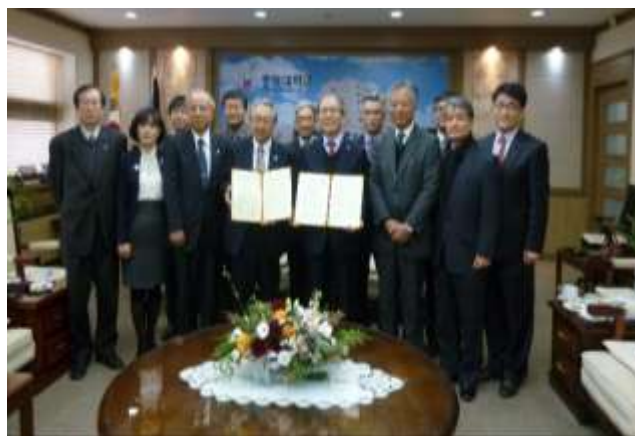
また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、企画戦略部国際企画課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。

3. 国際交流協定

(1) 2016年度の国際交流協定の締結等

2016年度は国際交流協定を14大学(大学間10大学、学部間4大学)と締結し、18の大学・機関(大学間8大学、学部間10大学)と更新した。

その結果、2017年3月末現在で、山口大学は大学間では24ヵ国・地域の92大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では9学部、3研究科が23ヵ国・地域の50大学・機関と国際交流協定を締結している。



【2016.12 韓国・忠北大学校との大学間協定調印式】

(2) 大学等間国際交流協定

| 国・地域名 | 機関名（英語表記） | 締結年月日 | 学生交流覚書 |
|---|--|-----------------------------------|------------|
| インドネシア | ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University) | 2008.04.15 | 有 |
| | ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University) | 2008.10.14 | |
| | ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University) | 2010.03.10 | |
| | ウダヤナ大学 (Udayana University) | 2010.03.25 | |
| | バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology) | 2012.05.25 | 有 |
| | インドネシア大学 (University of Indonesia) | 2015.12.16 | 有 |
| | 地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency) | 2016.07.20 | |
| | 財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance) | 2016.01.21 | |
| 韓国 | 仁荷大学校 (Inha University) | 1998.06.25 | 有 |
| | 公州大学校 (Kongju National University) | 1999.03.15 | 有 |
| | 韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies) | 2003.12.02 | 有 |
| | 慶尚大学校 (Gyeongsang National University) | 2004.11.26 | 有 |
| | ソウル市立大学校 (University of Seoul) | 2009.12.21 | 有 |
| | 昌原大学校 (Changwon National University) | 2010.02.10 | 有 |
| | ソウル大学校 (Seoul National University) | 2010.02.11 | 有 |
| | 亜州大学校 (Ajou University) | 2010.03.08 | 有 |
| | 梨花女子大学校 (Ewha Womans University) | 2010.03.08 | 有 |
| | 群山大学校 (Kunsan National University) | 2010.04.26 | 有 |
| | 釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies) | 2014.12.04 | 有 |
| | 全北大学校 (Chonbuk National University) | 2015.09.16 | 有 |
| | 忠北大学校 (Chungbuk National University) | 2016.12.23 | 有 |
| | タイ | カセサート大学 (Kasetsart University) | 1998.07.03 |
| ソククラ王子大学 (Prince of Songkla University) | | 2001.10.29 | 有 |
| コンケン大学 (Khon Kaen University) | | 2001.10.30 | 有 |
| チェンマイ大学 (Chiang Mai University) | | 2001.10.31 | 有 |
| シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University) | | 2001.11.01 | 有 |
| タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency) | | 2008.08.27 | |
| チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University) | | 2010.09.14 | |

| 国・地域名 | 機関名（英語表記） | 締結年月日 | 学生交流覚書 |
|-------|---|------------|----------------|
| 中国 | 山東大学 (Shandong University) | 1983.06.02 | 有 |
| | 北京師範大学 (Beijing Normal University) | 2004.02.09 | 有 |
| | 武漢理工大学 (Wuhan University of Technology) | 2004.05.20 | 有 |
| | 貴州大学 (Guizhou University) | 2005.03.25 | 有 |
| | 重慶理工大学 (Chongqing University of Technology) | 2010.11.19 | 有 (工学部) |
| | 首都師範大学 (Capital Normal University) | 2011.10.17 | 有 |
| | 江蘇大学 (Jiangsu University) | 2013.09.03 | 有 |
| | 大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages) | 2013.12.30 | 有 |
| | 西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University) | 2015.04.28 | 有 |
| | 香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University) | 2015.07.20 | 有 |
| | 香港教育大学 (The Education University of Hong Kong) | 2015.09.02 | 有 |
| | 遼寧師範大学 (Liaoning Normal University) | 2016.03.15 | 有 |
| | 浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University) | 2017.01.03 | 有 |
| | 湖州師範大学 (Huzhou University) | 2017.02.28 | 有 |
| 台湾 | 国立中興大学 (National Chung Hsing University) | 2006.03.09 | 有 |
| | 東海大学 (Tunghai University) | 2009.09.30 | 有 |
| | 逢甲大学 (Feng Chia University) | 2009.09.30 | 有 |
| | 大葉大学 (Dayeh University) | 2009.09.30 | 有 |
| | 静宜大学 (Providence University) | 2009.09.30 | 有 |
| | 開南大学 (Kainan University) | 2012.10.15 | 有 |
| | 国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University) | 2014.11.18 | 有 |
| | 淡江大学 (Tamkang University) | 2016.12.29 | 有 |
| ベトナム | 教育訓練省 国際教育開発局 (Vietnam International Education Development, Ministry of Education and Training) | 2009.03.30 | 有 (相互協力附属書) |
| | カントー大学 (Can Tho University) | 2011.11.16 | 有 |
| | ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture) | 2012.03.29 | 有 |
| | ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City) | 2015.07.21 | 有 |
| | 国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education) | 2015.07.22 | 有 |
| | 東部国際大学 (Eastern International University) | 2015.12.07 | 有 |

| 国・地域名 | 機関名（英語表記） | 締結年月日 | 学生交流覚書 |
|-------------|--|------------|------------------------|
| マレーシア | サラワク大学 (University Malaysia Sarawak) | 2012.03.29 | 有 |
| | マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia) | 2012.09.05 | 有 |
| | クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur) | 2016.07.13 | 有 |
| ラオス | ラオス国立大学 (National University of Laos) | 2012.04.12 | 有 |
| ミャンマー | イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University) | 2015.01.12 | |
| イギリス | シェフィールド大学 (University of Sheffield) | 1997.11.28 | 有 |
| | ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London) | 2007.11.19 | 有 (工学部) |
| | セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire) | 2012.11.05 | (協定書内に学生交流 に関する記載有) |
| ドイツ | エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg) | 2003.03.17 | 有 |
| | ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences) | 2015.03.16 | 有 |
| | ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin) | 2015.08.17 | 有 |
| フランス | シャルル ド ゴール リール第3大学 (Charles de Gaulle University-Lille III) | 2015.10.16 | 有 |
| | カトリック・ド・リール大学 (Lille Catholic University) | 2016.01.20 | 有 |
| スペイン | サラゴサ大学 (University of Zaragoza) | 2014.11.27 | 有 (工・共同獣医) |
| | バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona) | 2015.09.14 | |
| ハンガリー | エトヴェシュ・ロラード大学 (Eotvos Lorand University) | 2015.05.25 | (協定書内に学生交流 に関する記載有) |
| | カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary) | 2015.08.18 | |
| ロシア | モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University) | 2015.03.05 | |
| | モスクワ工業大学 (Moscow Technological University) | 2015.11.26 | |
| リトアニア | ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University) | 2015.09.03 | 有 |
| デンマーク | サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark) | 2016.05.26 | 有 |
| エジプト | カイロ大学 (Cairo University) | 2012.02.12 | |
| アメリカ 合衆国 | オクラホマ大学 (University of Oklahoma) | 1996.02.19 | 有 |
| | ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo) | 2015.02.25 | |
| | 中央フロリダ大学 (University of Central Florida) | 2015.04.16 | |
| | カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona) | 2015.03.20 | |
| | フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University) | 2015.12.21 | 有 |
| | マンハッタンビル大学 (Manhattanville College) | 2016.07.19 | 有 |
| カナダ | リジャイナ大学 (University of Regina) | 1996.02.07 | 有 |

| 国・地域名 | 機関名（英語表記） | 締結年月日 | 学生交流覚書 |
|----------|---|------------|------------|
| チリ | バルパライソ大学 (University of Valparaiso) | 2015.07.02 | 有 |
| | コンセプション大学 (University of Concepcion) | 2016.01.13 | 有 |
| ペルー | ペルー国立工科大学 (National University of Engineering) | 2016.09.20 | |
| オーストラリア | ニューカッスル大学 (University of Newcastle) | 2003.08.08 | 有 (工学部) |
| | シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney) | 2012.05.30 | 有 |
| | サザンクロス大学 (Southern Cross University) | 2015.08.20 | |
| ニュージーランド | リンカーン大学 (Lincoln University) | 2015.11.11 | 有 |

(3) 部局等間国際交流協定

| 国・地域名 | 締結部局 | 機関名 (英語表記) | 締結 年月日 | 学生 交流 覚書 |
|------------|--|--|------------|----------------|
| インド ネシア | 工学部 | マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang) | 2014.06.27 | |
| | | マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang) | 2014.06.27 | |
| | | マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang) | 2015.07.31 | |
| | リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University) | 2014.12.24 | 有 | |
| | 理工学 研究科 | 国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency) | 2016.01.21 | |
| 韓国 | 教育学部 | 釜山大学校 教育学部 (College of Education, Pusan National University) | 2010.06.21 | |
| | 理学部 | 韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute) | 2010.03.15 | |
| | 工学部 | 又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University) | 2010.02.01 | |
| タイ | 医学部 | マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University) | 2001.03.26 | |
| | 農学部 | キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi) | 2006.05.23 | 有 |
| | | タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University) | 2012.01.16 | |
| | | メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University) | 2012.02.23 | 有 |
| | | ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok) | 2013.07.11 | 有 |
| | | メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University) | 2016.01.04 | |
| 中国 | 教育学部 | 復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University) | 2005.09.23 | 有 |
| | 経済学部 | 中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China) | 2001.06.03 | 有 |
| | 医学部 | 吉林大学 中日友好病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University) | 2009.09.25 | |
| | | 大連医科大学 (Dalian Medical University) | 2006.12.14 | |
| | 工学部 | 上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University) | 2004.02.11 | |
| | | 西華大学 (Xihua University) | 2007.02.05 | 有 |
| | 農学部 | 東北師範大学 環境学院 (School of Environment, Northeast Normal University) | 2010.04.15 | |
| | 国際総合 科学部 | 山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University) | 2016.03.15 | 有 |
| | 東アジア 研究科 | 復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University) | 2001.10.29 | |
| 台湾 | 経済学部 | 国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism) | 2012.03.09 | 有 |
| | 医学部 | 国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University) | 2009.04.01 | |
| | 理学部 | 台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University) | 2016.12.30 | |

| 国・地域名 | 締結部局 | 機関名 (英語表記) | 締結 年月日 | 学生交流 覚書 |
|--------------|--------------|--|------------|----------------------------|
| 台湾 | 教育学部 | 淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University) | 2013.07.23 | 有 |
| | 人文学部 | 東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University) | 2014.09.19 | |
| モンゴル | 共同獣医学部 | モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences) | 2015.11.13 | |
| ネパール | 連合獣医学研究科 | 農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University) | 2015.03.05 | |
| バングラ デシュ | 理学部 | バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment) | 2000.05.04 | |
| | 農学部 | ジャハングナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University) | 2012.03.06 | 有 |
| ベトナム | 共同獣医学部 | ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development) | 2012.07.24 | |
| スリラン カ | 農学部 | サバラガムア大学 農学部 (Faculty of Agricultural Sciences, Sabaragamuwa University of Sri Lanka) | 2014.01.23 | 有 |
| | | スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya) | 2016.03.03 | |
| インド | 工学部 | クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra) | 2017.01.11 | |
| トルコ | 工学部 | ダムルピナー大学 工学部 (Faculty of Engineering, Dumlupinar University) | 2015.05.20 | |
| ウクライ ナ | 教育学部 | イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv) | 2004.11.16 | 有 |
| イギリス | 工学部 | ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol) | 2010.03.01 | |
| ロシア | 医学部 | カザン医科大学 (Kazan State Medical University) | 2012.12.17 | |
| ポルトガ ル | 工学部 | 新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon) | 2013.08.08 | 有 |
| フランス | 工学部 | ボルドー大学 (University of Bordeaux) | 2014.03.11 | 有 |
| スペイン | 工学部 | カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria) | 2015.02.25 | 有 |
| スイス | 国際総合 科学部 | ベルン応用科学大学 経営管理学部 (School of Business, Bern University of Applied Sciences) | 2015.09.03 | 有 |
| アメリカ 合衆国 | 医学部 | バージニア大学 看護学部 (School of Nursing, University of Virginia) | 2000.11.06 | |
| | 国際総合 科学部 | エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College) | 2015.07.28 | (協定書内に 学生交流に関 する記載有) |
| アルゼン チン | 農学部 | ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata) | 2011.04.27 | |
| オースト ラリア | 教育学部 | キャンベラ大学 (University of Canberra) | 1994.03.15 | |
| | 連合獣医学 研究科 | 西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia) | 2015.10.22 | |
| ニュージ ーランド | 農学部 | ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited) | 2008.09.03 | |

4. 海外拠点

最近では多くの日本の大学が、留学生募集や、海外の大学との共同研究拠点、共同授業の提供などを目的として、海外に事務所を開設するようになった。山口大学でも交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを 2004 年 10 月に中国の北京師範大学、2005 年 3 月に山東大学に設置してきた。

2009 年度には、海外拠点の実質化を目指すとともに、他地域にも展開するとの方針のもと、先の 2 大学にインドネシア、台湾の 3 大学を加えた。

さらに、2014 年度にクアラルンプールのマレーシア工科大学内に、2016 年度にはバンコクのカセサート大学内に拠点事務所を設置した。2016 年末現在で、本学の海外拠点は以下のとおり計 7 拠点の体制となった。

- ① 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号 北京師範大学内
- ② 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100048 北京市海淀区西三環北路 83 号 首都師範大学内
- ③ 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ④ 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
- ⑤ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
- ⑥ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia
- ⑦ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」
住所：Kasetsart University
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900,
Thailand



バンコク国際連携オフィス



クアラルンプール国際連携オフィス

5. 本部への海外からの来訪者

(1)本部への海外からの来訪者一覧

| 日時 | 訪問者 | 国・地域名 |
|--------------------------|---|----------|
| 2016.4.6 | リンカーン大学 Mr. Patrick Yeung | ニュージーランド |
| 2016.4.26 | ペルー山口県人協会 相談役 藤井隆彦氏 | ペルー |
| 2016.6.10 | ヴィータウタスマグヌス大学 ・政治科学外交学部長 Sarunas Liekis ・国際オフィス Mr. Vaidas Daciola | リトアニア |
| 2016.6.16 | ルツェルン応用科学芸術大学 工学建築学部教授 Uwe Schulz | スイス |
| 2016.6.30 | ウースター州立大学 国際プログラム長 Katey Palumbo | アメリカ |
| 2016.8.2 | 山東大学 ・財務部副部長 He weixing ・齊魯医学部人事部副部長 Zhangnaiting | 中国 |
| 2016.8.19 | 群山大学校 ・学長 Euigyun Na ・工科大学学部長 Jae-Jeong Hwang ・産学連携センター長 Dong-Ik Kim 他2名 | 韓国 |
| 2016.8.19 | 忠北大学校 ・学長 Yeo-Pyo Yun ・入学本部長 Dal-ho Lim 他6名 | 韓国 |
| 2016.9.23 | ①カセサート大学 ・農学部長 Sutkhet Nakasathien ・副学長代行 Kampanat Pensupar ・熱帯農学国際プログラム長 Ed Sarobol 他2名 ②ARDA(タイ農学機構)及びNRCT(タイ学術会議) ・事務局長 Panpimon Chunyanuwat (ARDA) ・事務局長 Sukunya Theerakullert (NRCT) ・カセサート大学准教授 Gunjana Theeragool 他2名 | タイ |
| 2016.9.29 | 大葉大学 応用日語学系 准教授 陳 文瑤 | 台湾 |
| 2016.10.17 2016.12.15 | ダッカ大学 公共管理学部 教授 Musleh Uddin Ahmed | バングラデシュ |
| 2016.10.31 | スブラス・マレット大学 ・教員養成教育学部副学部長 Munawir Yusuf ・教員養成教育学部講師 Murni Ramli ・教員養成教育学部講師 Herman Saputro | インドネシア |

| | | |
|------------|---|---------|
| 2016.11.21 | マランイスラム大学 助教 Novi Arfarita, SP, MP, M.Sc, Ph D, (元山口大学留学生)-Head of International Office-University of Islam Malang (UNISMA) Indonesia International Research Center for the Management of Degraded and Mining Lands (IRC-MEDMIND) | インドネシア |
| 2016.11.28 | カトリック・ド・リール大学 ・国際オフィス所長 Ms. Anne- Marie MICHEL | フランス |
| 2016.12.1 | 東海岸経済地域開発委員会 ・最高経営責任者 Datuk Seri Jebasingam Issace John ・経済顧問 Datuk Suhaidi Sulaiman ・投資家管理部門 Saifol Bahri Mohamad Shamlan ・投資家管理部門 Shamini Murugaya ・経営課管理部門 Ikhwan Al-Rashid Abdul Rahman | マレーシア |
| 2016.12.9 | カセサート大学 (JD 検討委員会メンバー) ・理学部長 Supa Hannongbua ・研究科長 Somwang Khantayanuwong ・研究科長補佐 Gunjana Theeragool 他3名 | タイ |
| 2016.12.22 | インドネシア教育庁(DIKNAS) Dr. Abe Susanto, Program Coordination, Bureau of Planning and International Cooperation | インドネシア |
| 2017.2.16 | 駐日ベトナム社会主義共和国大使館 ・特命全権大使 グエン・クオック・クオン氏 ・大使夫人 ホアン・ティ・ミン・ハー氏 ・大使秘書官 グエン・ホン・ディエップ氏 | ベトナム |
| 2017.2.28 | 梨花女子大学 ・国際担当副学長 Ihn-Hwi Park ・大学院大気科学工学科助教 Changhyun Yoo ・スクラントン学部韓国学科助教 Sang-ho Ro | 韓国 |
| 2017.3.21 | バンドン工科大学 ・ Mr. Minar Akbar Kurniawan, Secretary to SBM ITB Undergraduate Program in Entrepreneurship ・ Mr. Augusman Marthin Leonard, Secretary to SBM IBM Master Program in Business Administration | インドネシア |
| 2017.3.30 | ニューカッスル大学 ELICOS ・英語及び基礎教育課程センター長 Seamus Fagan | オーストラリア |



忠北大学校 学長表敬訪問



群山大学校 学長表敬訪問

6. 本学学長の海外訪問

| 訪問日程 | 訪問先・内容（訪問者） | 国・地域名 |
|-----------|--|-------|
| 2016.10 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・在露日本大使館主催レセプション，日露学長会議 ・モスクワ大学訪問 | ロシア |
| 2016.11 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・チョンブリ県 The 2nd Joint Seminar ナパワン教授への名誉教授称号授与式 ・在タイ日本大使館表敬訪問 ・カセサート大学 山口大学バンコク国際連携オフィス開所式 ジョイントディグリーに関する調印式 | タイ |
| 2016.12 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・韓国同窓会 ・忠北大学校 大学間交流協定調印式， ICIARE2016 & CEDC2016 | 韓国 |

7. その他

(1)国際会議，国際シンポジウムの開催

山口大学では，教員・研究者が海外の大学を訪問し，また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく，海外の研究者や国際的に活躍している著名人を招へいして，国際シンポジウム等を開催している。2016年度は次表のとおり講演会を開催した。

国際シンポジウム等開催状況（2016年度）

| | 名称 | 期日 |
|---|--|--------------|
| 1 | 山口大学「国際協力の里」特別講演会 「台湾の歴史と日台関係」 | 2016/6/10（金） |
| 2 | 山口大学「国際協力の里」特別講演会 「国際化加速時代における国際人とは？」 | 2016/7/16（土） |

(2)政府開発援助（ODA）との連携実績

山口大学では，「国際協力銀行」（ODA 担当部門は，2008年10月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で，2004年5月7日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し，また教育学部，経済学部が JICA（中国国際センター）との間で2006年3月27日に「JICA 中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に1本化し，本学学長と JICA 理事長の間で2010年6月1日に署名・締結し，2015年6月1日に更新した。）2016年までの実績は以下のとおり。

①留学生受け入れ

| プロジェクト | 受入学部・研究科 | 対象国・地域 |
|------------------------------|----------------|-------------------------------------|
| ○無償資金協力（JDS）による留学生の受入 | 経済学研究科 | バングラデシュ，インドネシア，フィリピン，ラオス，ミャンマー，ネパール |
| ○有償資金協力（円借款）による留学生の受入 | | |
| ・高等教育基金借款事業（III） | 工学部 | マレーシア |
| ・国立イスラム大学 | 医学系研究科 | インドネシア |
| ・高等人材開発事業（III） | 理工学研究科 | インドネシア |
| ○技術協力（PEACE プロジェクト）による留学生の受入 | 経済学部 経済学研究科 | アフガニスタン |

| | | |
|-----------------------|----------------|---------------------------------|
| ○ABE イニシアティブによる留学生の受入 | 経済学部 経済学研究科 | コンゴ民主共和国, 南アフリカ共和国, タンザニア |
|-----------------------|----------------|---------------------------------|

②技術協力プロジェクト

| プロジェクト | 形態 | 分野 | 対象国・地域 |
|--|------|--------------|--------|
| カンボジア日本人材開発センター（H16年4月1日～H21年3月31日） | 技術協力 | 民間セクター 開発 | カンボジア |
| ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第1次）（H20年12月～H21年9月） | 技術協力 | 民間セクター 開発 | ラオス |
| 天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19年度） | 円借款 | 民間セクター 開発 | カンボジア |
| 貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査 | 円借款 | 人材育成 | 中国 |
| 東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力 | 技術協力 | 人材育成 | 東ティモール |

③専門家派遣

| プロジェクト | 形態 | 派遣期間 | 対象国・地域 |
|------------------------------|----|---------------------|--------|
| 個別専門家（初中等教育計画） | 長期 | 2005年1月～ 2007年1月 | フィリピン |
| 理数科教員養成（生物教育） | 短期 | 2005年8月～9月 | ラオス |
| 経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査 | 短期 | 2007年11月～12月 | 中国 |
| 法制度整備支援基礎情報収集・確認調査 | 短期 | 2009年1月～2月 | ラオス |
| 民間セクター振興プログラム | 短期 | 2008年3月 | カンボジア |
| 持続可能な地域観光振興 | 短期 | 2008年4月～5月 | ドミニカ |
| 平成18年度 円借款事業事後評価業務 | 短期 | | 中国 |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2010年10月 2011年3月 | 東ティモール |

| | | | |
|--|----|--|--------|
| タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査 | 短期 | 2011年2月 | タンザニア |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2011年11月 2012年3月 | 東ティモール |
| マレーシア日本国際工科院技術経営学部のカリキュラム設定、教員募集についての協議に係る調査 | 短期 | 2012年1月 | マレーシア |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2012年8月 2013年3月 | 東ティモール |
| ミャンマー法整備支援詳細計画策定調査 | 短期 | 2012年12月 | ミャンマー |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2013年8月 2013年9月 2013年12月 2014年1月 2014年3月 | 東ティモール |
| タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査 | 短期 | 2013年10月 | タンザニア |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2014年9月 2014年10月 2015年2月 2015年3月 | 東ティモール |
| タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査 | 短期 | 2014年6月 | タンザニア |
| 東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査 | 短期 | 2015年8月 2015年9月 2015年10月 | 東ティモール |

| | | | |
|------------------------------|----|---|--------|
| タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査 | 短期 | 2015年9月 | タンザニア |
| 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト | 短期 | 2016年2月 2016年3月 | 東ティモール |
| 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2 | 短期 | 2016年9月 2016年11月 2017年2月 2017年3月 | 東ティモール |
| タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査 | 短期 | 2017年1月 | タンザニア |

④研修員受入

| コース名 | 形態 | 受入期間 | 国・地域名 |
|---------------|------|------------------|--------|
| 花き園芸 | 個別 | 1996年3月～12月 | ケニア |
| 地震観測システム | 個別 | 1996年12月～1997年3月 | トルコ |
| 地震解析 | 個別 | 1996年12月～1997年3月 | トルコ |
| 環境工学 | 個別 | 1997年3月～7月 | インドネシア |
| 地震観測システム | 個別 | 1998年3月～5月 | トルコ |
| 獣医学（小型動物内視鏡） | 日系個別 | 1998年4月～1999年4月 | ブラジル |
| 消化器内視鏡 | 個別 | 1999年1月～2月 | アルゼンチン |
| 節水灌漑 | 個別 | 1999年3月～6月 | 中国 |
| 看護学 | 日系個別 | 1999年4月～2000年3月 | ブラジル |
| カロチン抽出分離 | 個別 | 1999年8月～10月 | マレーシア |
| 土地水質源管理学 | 個別 | 2001年8月～11月 | ベトナム |
| 土地資源管理 | 長期研修 | 2001年9月 | ベトナム |
| 繁殖ホルモン測定技術の応用 | 個別 | 2004年8月～9月 | ベトナム |

| | | | |
|---|------|-----------------------|--|
| 現職教員研修 | 集団 | 2005年10月～11月 | フィリピン |
| 高品質肉牛の管理と繁殖 | 日系個別 | 2009年5月～2010年2月 | ブラジル |
| 稲研究人材育成 | 長期研修 | 2009年9月～2011年8月 | タンザニア |
| 参加型農村開発 | 短期 | 2009年10月 | バングラデシュ 12名 |
| 高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的なビジョン | 日系個別 | 2011年5月～2012年2月 | ボリビア |
| 東ティモール国立大学工学部土木学科 教官短期研修 | 短期 | 2011年11月 | 東ティモール |
| 高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的な新ビジョン | 日系個別 | 2012年5月～2013年2月 | ペルー |
| 東ティモール国立大学工学部土木学科 教官短期研修 | 短期 | 2012年10月 | 東ティモール |
| 東ティモール国立大学工学部土木学科 教官短期研修 | 短期 | 2013年7月～8月 2014年2月 | 東ティモール |
| バングラデシュ地方行政能力強化研修 | 国別 | 2013年9月 | バングラデシュ |
| バングラデシュ地方行政能力強化研修 | 国別 | 2014年5月 | バングラデシュ |
| バングラデシュ地方行政能力強化研修 | 国別 | 2015年9月 | バングラデシュ |
| 和牛等の高品質家畜生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理 | 日系個別 | 2015年5月～2016年2月 | ブラジル |
| バングラデシュ地方行政能力強化研修 | 国別 | 2016年5月 | バングラデシュ |
| 日本の防災対策 | 日系個別 | 2016年10月～11月 | ブラジル |
| 中央アジア・コーカサス混成/地方行政 コース | 青年 | 2016年10月～11月 | ウズベキスタン, カザフスタン, キルギス, タジキスタン |

⑤ODA 資金による中小企業海外展開支援事業

| 採択企業 | 調査名 | 対象分野 | 対象国 |
|------------------------------|--|----------|--------|
| 多機能フィルター株式会社・国立大学法人山口大学共同企業体 | 防災・環境保全及び環境再生技術の展開・普及可能性調査 | 防災・災害対策 | インドネシア |
| 株式会社多機能フィルター | 防災・環境保全及び環境再生技術の普及・実証事業 | 防災・災害対策 | インドネシア |
| 株式会社アースクリエティブ | インドネシア国バリ州における浄化槽の包括的な維持管理体制の構築による水環境改善案件化調査 | 水処理・水の浄化 | インドネシア |
| 協和建設工業株式会社 | 農業生産性向上のためのシートパイプシステム導入に関する案件化調査 | 農業 | インドネシア |

⑥JICA 協力授業

- ・国際協力論 JICA の歩みと役割他（経済学部）
- ・東アジア国際協力概論 開発途上国の現状と課題，有償資金協力の仕組みと課題，有償資金協力の事例紹介（工学部）

⑦青年海外協力隊広報協力

学生及び地域住民を対象とする制度説明会の開催，協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター，国際戦略室教員による希望学生指導。

⑧農林水産省による ODA 事業との連携

アジア諸国における野菜新品種の導入支援 世界野菜センター（AVRDC）及びアジア諸国の研究機関の連携による，アジア諸国での野菜新品種導入支援，日本国種苗産業のアジア諸国への事業展開支援（農学部）

(3) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては，海外でのデータの収集，海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり，毎年多くの教員，研究者を海外に派遣し，また山口大学にも多くの海外の大学教員，研究者を受け入れている。また国際的なネットワークや連携を通じて，共同研究，シンポジウムの開催，授業の相互提供といった国際活動が行われている。

2016 年度は延べ 840 名の教員を上記の目的で海外に派遣した。また 2016 年 4 月から新しく受入れを開始した外国人研究者の合計は，47 名であった。

※人数の把握は，「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

(4) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD (スタッフ・ディベロップメント) 研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を1週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。

なお、2012年度に工学部が文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴い、さらなる事務系職員の国際業務対応力向上を目指して、派遣者枠を拡大した。

- ・ 2005年度：2名 (米国・ハワイ大学, 英国・シェフィールド大学)
- ・ 2006年度：2名 (カナダ・リジャイナ大学, ドイツ・エアランゲン大学)
- ・ 2007年度：2名 (米国・オクラホマ大学, 豪州・ニューカッスル大学)
- ・ 2008年度：2名 (中国・山東大学及び香港中文大学)
- ・ 2009年度：2名 (中国・山東大学)
- ・ 2010年度：4名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学外, インドネシア・ウダヤナ大学)
- ・ 2011年度：3名 (中国・山東大学, インドネシア・ガジャマダ大学)
- ・ 2012年度：4名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学, インドネシア・ガジャマダ大学)
- ・ 2013年度：13名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学, インドネシア・ウダヤナ大学,
ベトナム・ハノイ農業大学, カントー大学, タイ・カセサート大学, ラジャマンガラ工科大学)
- ・ 2014年度：16名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学, インドネシア・ウダヤナ大学,
ガジャマダ大学, オーストラリア・シドニー工科大学, ニューカッスル大学,
カナダ・リジャイナ大学, タイ・チェンマイ大学, シーナカリンウィロート大学,
マレーシア・マレーシア工科大学, マレーシア日本国際工科院)
- ・ 2015年度：13名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学, 東海大学, 静宜大学, タイ・
チュラロンコン大学, カセサート大学, マレーシア・マレーシア日本国際工科院,
マレーシア工科大学, インドネシア・バンドン工科大学, ウダヤナ大学,
国際交流基金ジャカルタ日本文化センター, インドネシア大学, ダルマプルサダ大学,
オーストラリア・ニューカッスル大学, シドニー工科大学, イギリス・
ブリストル大学, サリー大学, セントラルランカシャー大学, JSPS ロンドン,
ドイツ・エアランゲン大学)
- ・ 2016年度：9名 (中国・大連外国語大学, 山東大学, APU 上海オフィス, 台湾・
大葉大学, 国立中興大学, 東海大学, タイ・チェンマイ大学, カセサート大学,
シーナカリンウィロート大学, チュラロンコン大学, インドネシア・インドネシア大学,
ガジャマダ大学, ウダヤナ大学, APU ジャカルタオフィス)

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活，教育，研究の支援や，部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し，2010年度から，外国人対応の業務に必要なコミュニケーション及び英語能力向上研修として，ネイティブスピーカー講師による英会話訓練を行っている。2015年度からは，グローバル人材育成推進事業の一環で設置された工学部のグローバル技術者養成センターと共同で研修を実施し，同年度には24名が本研修に参加した。2016年度は，「コミュニケーションスキル向上クラス」と「TOEIC対策クラス」を吉田地区と宇部地区にそれぞれ設置し，全13回の研修を行った。

(5) 学内の国際化推進体制の整備

国際化推進を目的として，外国人留学生・研究者の渡日後の生活支援のための「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を，2010年12月吉田地区で試行実施で設置した。翌2011年6月には，アドバイザー2名（吉田地区1名，宇部地区1名）を配置し，サポートオフィスを本格稼働させ，外国人留学生・研究者の渡日，入学，入学後の各種支援体制を整えた。

また，2016年度には国際戦略室に「ダイバーシティに関するWG」「留学危機管理に関するWG」「国際連携オフィスに関するWG」を設置し，提言を行った。特に留学危機管理に関しては，危機事象発生時の学内の対応について，対応内容と役割等を定めた「山口大学留学危機管理マニュアル」案を10月に作成し，大学教育機構に提案を行った。併せて海外留学危機管理ガイドブック改訂のための見直しを行い，大学教育機構から説明会の場で配付，説明するなどして，学生の海外渡航の際の危機管理が徹底されるよう環境を整備した。また，派遣学生，受入学生それぞれに24時間365日対応のコールセンターサービスを新たに導入し，本学学生が安全な留学生生活を送れるよう危機管理体制を整えた。

第2章 2016年度の留学生部門の活動

2016年度の留学生総数（交換留学生を含まず）は341名であり、平成20年度から過去9年間に於いて最高であった（図1）。国別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており、中華人民共和国からの留学が最も多く、その数も年々増加傾向にある（図2）。

交換留学に関しては、89名の学生を本学から派遣し、137名を受入れた。交換留学生数は図3に記載のとおり平均して年々増加しており、特に2016年度は、国際総合科学部において初年度学生85名を各国に派遣し、76名の留学生を受入れた。

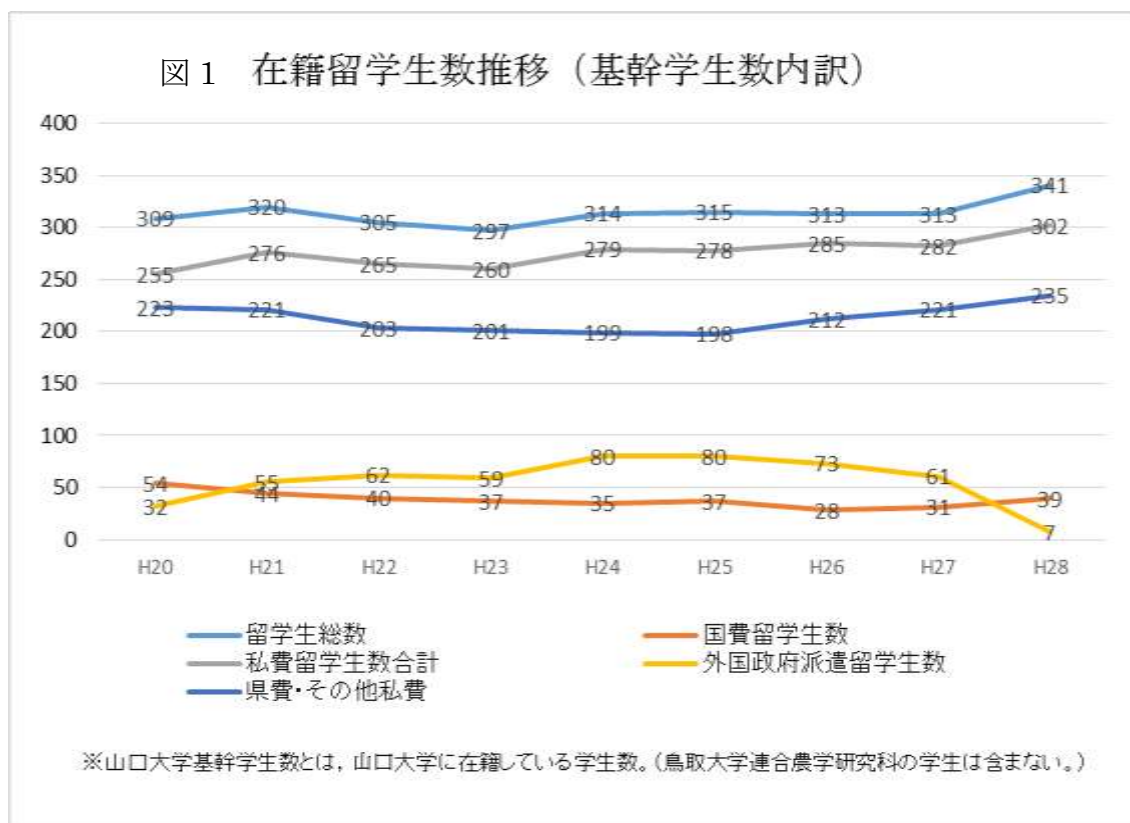
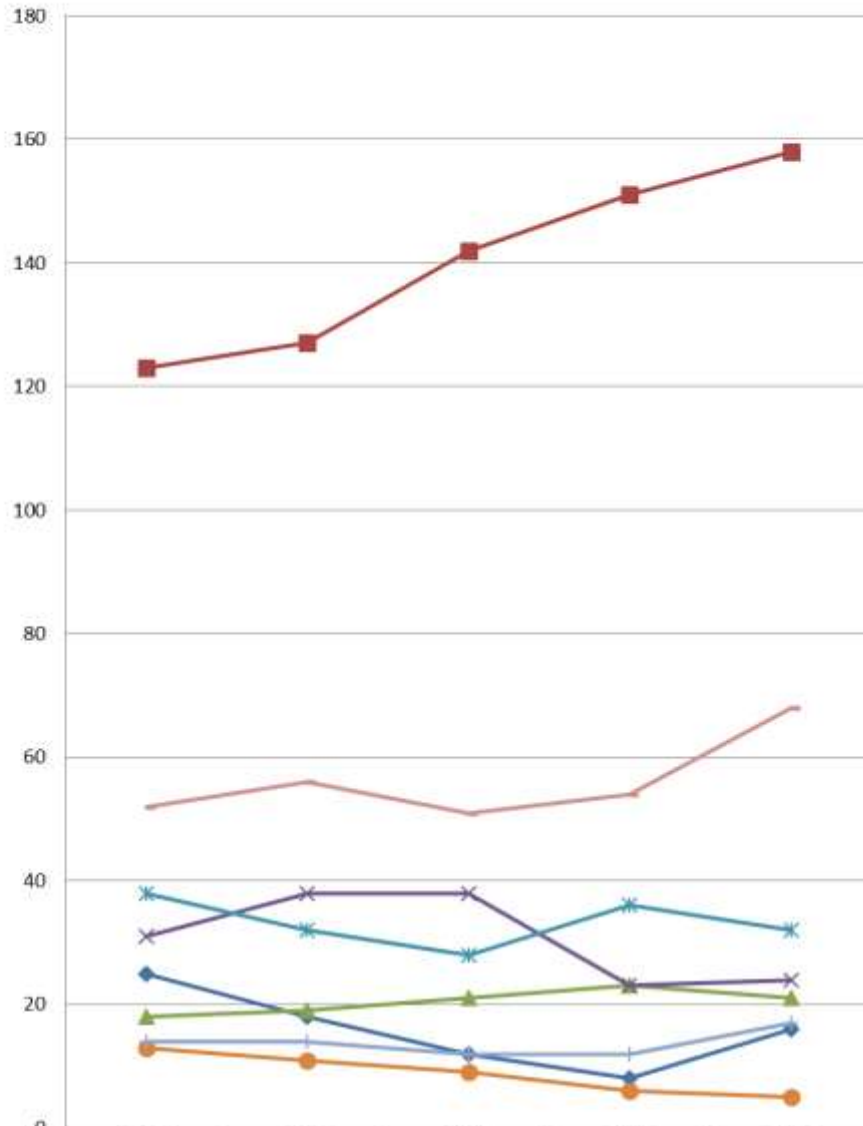


図2 [国別]過去5年間留学生数推移

※交換留学生数は含まず



| | 2012 (H24) | 2013 (H25) | 2014 (H26) | 2015 (H27) | 2016 (H28) |
|---------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 大韓民国 | 25 | 18 | 12 | 8 | 16 |
| 中華人民共和国 | 123 | 127 | 142 | 151 | 158 |
| 台湾 | 18 | 19 | 21 | 23 | 21 |
| インドネシア | 31 | 38 | 38 | 23 | 24 |
| マレーシア | 38 | 32 | 28 | 36 | 32 |
| タイ | 13 | 11 | 9 | 6 | 5 |
| バングラデシュ | 14 | 14 | 12 | 12 | 17 |
| その他 | 52 | 56 | 51 | 54 | 68 |
| 合計 | 314 | 315 | 313 | 313 | 341 |

| エリア区分 | 国・地域 | 協定校 | 協定分類 | 学生交流 附属書 | 協定で定める 派遣学生数の 上限(1年間) | 交換留学に 係る特記事項 | H24 (2012) | | H25 (2013) | | H26 (2014) | | H27 (2015) | | H28 (2016) | | 合計 | | | |
|----------|------------------|-----------------------|----------------|-------------|-----------------------------|-----------------|--------------------|----|---------------|----|---------------|----|---------------|----|---------------|----|----|------|-----|----|
| | | | | | | | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | | | | |
| | | | | | | | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | | | | |
| ヨーロッパ | イギリス | シェフィールド大学 | 大学院 | 有 | 3 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| | | UCL | 大学院 | 有(工) | 1 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | セントラル・ランカシャー大学 | 大学院 | | 5 | ** | | | | | | | | | | | | | 14 | 11 |
| | | プリストル大学 工学部 | 工学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | ウクライナ | イヴァン・フランコ記念リウウ国立大学 | 教育学部 | 有 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 |
| | | エランゲン・ニュルンベルグ大学 | 大学院 | 有 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 11 | 4 |
| | ドイツ | ホフ大学 | 大学院 | 有 | 5 | (5) | | | | | | | | | | | | | 5 | 1 |
| | | ベルリン・ポイト工科大学 | 大学院 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | ロシア | モスクワ大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | モスクワ工科大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | カザン医科大学 | 医学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | フランス | ボルドー大学 | 工学部 | 有 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | リール第3大学 | 大学院 | 有 | 5 | (3) | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 |
| | | カトリック・リール大学 | 大学院 | 有 | 5 | (4) | | | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| | | サラゴサ大学 | 大学院 | 有 | 12 | (5) | エ(5)-共(2)-F(5)S(5) | | | | | | | | | | | | 1 | 0 |
| | | スペイン | バルセロナ自治大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | カタリニア大学 産業工学通信学部 | 工学部 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | ポルトガル | 新リスボン大学 理工学部 | 工学部 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | ハンガリー | エトヴェシュ・ロランド大学 | 大学院 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 |
| | | | カーロリ大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | リトアニア | ヴィータウタス・マグヌス大学 | 大学院 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| スイス | ベルン応用科学大学 経営管理学部 | 国際総合科学部 | 有 | 5 | (5) | | | | | | | | | | | | | 5 | 5 | |
| | デンマーク | サザンデンマーク大学 | 大学院 | 有 | 3 | (2) | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| アフリカ | エジプト | カイロ大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| 北米 | アメリカ合衆国 | オクラホマ大学 | 大学院 | 有 | 10 | (5) | | | | | | | | | | | | | 1 | 10 |
| | | ハワイ大学ヒロ校 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | 中央フロリダ大学 | 大学院 | 有 | 8 | (5) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | バージニア大学 看護学部 | 医学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | エルジンコミュニティカレッジ | 国際総合科学部 | | 2 | (2) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | フィッツハーグ州立大学 | 大学院 | 有 | 5 | (3) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | マンハッタンビル大学 | 大学院 | 有 | 5 | (3) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | カナダ | リジャイナ大学 | 大学院 | 有 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 南米 | チリ | バルパライソ大学 | 大学院 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | コンセプション大学 | 大学院 | 有 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| ペルー | | ペルー国立工科大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | アルゼンチン | ラプラタ大学 理学部 | 農学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| オセアニア | オーストラリア | ニューカッスル大学 | 大学院 | 有(工) | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 |
| | | シドニー工科大学 | 大学院 | 有 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 17 |
| | | サザンクロス大学 | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| | | キャンベラ大学 | 教育学部 | 有 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 6 |
| | | 西オーストラリア大学 農学研究科 | 国際総合科学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| ニュージーランド | リンカーン大学 | 大学院 | 有 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| | ニュージーランド作物・食物研究所 | 農学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 合計 | | | | | 498 | | | | | | | | | | | | | 2028 | 653 | |

() は国際総合科学部への割当内数

1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2016 年度の留学生部門の活動

○ 留学生にリサイクル自転車を贈呈



4月18日(月)、吉田キャンパス国際交流会館前において、山口ライオンズクラブ主催による留学生へのリサイクル自転車贈呈式が行われました。山口ライオンズクラブは、ボランティア活動の一環として、本学の留学生に毎年10台のリサイクル自転車を贈呈しています。

式では、山口ライオンズクラブの田中章氏による司会のもと、同会長の三谷猛夫氏から「この自転車を使って、山口でのバイスクリライフを楽しんでください。」と挨拶がありました。続いて、本学の葛崎偉留学生センター長が「このように、地域の人々の支えがあって生活しているということを忘れず、自転車を大切にしてください。」と挨拶しました。その後、留学生を代表して人文学部のチェ・ジンウクさんが「山口に来てまだ数週間だが、自転車がなくて不便だった。とてもありがたく思います。」とお礼の言葉を述べました。

自転車が贈呈された後には全員で記念撮影をし、留学生らは早速嬉しそうに自転車に乗って、学内外に出て行きました。



○「YU 国際シェアハウス」の開所記念式典が行われました！

7月4日（月），国際総合科学部の交換留学生が中心として使用する宿舎「YU 国際シェアハウス」の開所記念式典が行われました。

「YU 国際シェアハウス」は，平成 23 年まで利用されていた山口市吉敷下東にある西日本電信電話（株）の旧社宅を留学生用宿舎に改修したもので，1 戸 3 名，2 棟あわせて 93 名が入居できます。



式典には，西日本電信電話（株）関係者や町内会副会長をはじめとする地域の方々，施工や室内の整備に携わった企業関係者，本学関係者ら約 50 名が参加しました。

岡学長から「多くの方にご支援いただき，グローバル化の実現という目的にあった宿舎ができた。しっかり運営していきたい」との感謝の言葉が述べられ，西日本電信電話（株）山口支店の潮崎浩則支店長からは，「山口大学の大きな取組に対して，われわれが貢献できるということは，大変大きな喜びです。」との挨拶がありました。

また，山口市吉敷下東町内会の内田秀高副会長からは，「YU 国際シェアハウスを迎え，町内会としても，今後の運営に理解，協力し，将来的にも大きく相互発展していけるものと信じています」との挨拶がありました。

各戸にはリビングダイニング、キッチン、バスルーム、トイレに加えてそれぞれの個室があり、全室共有の談話室およびランドリールームも整備されており、式典終了後の施設案内では、整備された内装に感嘆の声が上がっていました。

本格的な入所は9月末の予定ですが、7月7日（木）から始まるサマープログラム参加者28名も使用することになっています。

同シェアハウスが地域の活性化とグローバル化に貢献することが期待されます。



○ サマープログラムで自転車安全講習を実施しました！

7月8日（金）から始まったサマープログラムに参加する留学生28名を対象に、7月11日（月）、湯田自動車学校ご協力のもと、自転車安全講習を実施しました。

はじめに自転車の貸出手続きが行われた後、山口警察署から交通指導講習が行われ、自転車は左側通行することや、信号の場所、横断歩道の渡り方等について、留学生宿舎「YU国際シェアハウス」からの通学路の写真をパワーポイントで示しながら説明が行われました。

その後、実際に自転車に乗り、湯田自動車学校の教習所を利用した実技指導が行われ、最後に自転車に乗って山口大学まで行き、シェアハウスから大学までの通学路を確認しました。

留学生からは、「交通ルールが少し複雑だが、しっかり守って運転したい」との声があり、様々な安全ルールに戸惑いながらも有意義な時間を過ごせた様子でした。

サマープログラムは、海外の学生に対し日本語能力の向上と日本文化の理解を深めることを目的に、平成22年度から毎年開催しています。今年は、韓国、中国、台湾、タイから来日しており、約1ヶ月間にわたり日本語授業や日本文化体験、ホームステイ等が行われることとなっています。



○ 留学生懇談会を行いました！

11月18日（金）、吉田キャンパスにおいて、学長主催の留学生懇談会が開催され、留学生、本学留学生をご支援くださっている地域交流団体の方々、教職員等、総勢約250名が一堂に会しました。本留学生懇談会は毎年開催しており、山口大学の国際化を推し進める機会としています。

懇談会は二部形式で実施され、第一部では、「私の国の祭り」をテーマに、バングラデシュ、中国、ドイツ、ネパール、マレーシア、オーストラリアから来た留学生が発表を行い、当日まで発表の練習を続けてきた留学生らは、民族衣装等を身にまとい発表に臨み、練習の成果を発揮していました。日本ではまだあまり知られていない各国のお祭りの紹介が行われると、参加者からは関心や驚きの声が寄せられ、発表後には活発な質疑応答がなされました。

続いて行われた第二部の懇親会では、会の冒頭、日頃から留学生をご支援くださっている地域交流団体の代表の方々に対して、感謝状贈呈式が行われ、岡正朗学長より、感

謝の意が表明されました。岡学長の乾杯の発声で会が始まると、参加者同士での活発な交流が行われ、会場は大いに盛り上がりました。また、バングラデシュ、ドミニカ共和国、ペルー、ベトナムの学生による歌とダンスが披露され、参加者を魅了しました。閉会に際しては、葛崎偉留学生センター長から「山口大学の教職員は留学生の皆さんを全力でサポートしていきたいと思っている。何か困ったことがあれば、いつでも教職員にコンタクトを取ってほしい」との力強いメッセージが伝えられ、会はアットホームな雰囲気の中、盛会のうちに終わりました。

山口大学では、今後も本学のグローバル化の重要な鍵となる留学生に対するサポートを万全の体制で行うべく、留学生との交流の場づくりを積極的に行っていきます。



第3章 2016年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) 二国間交流事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

①【研究課題】 がんの転移・再発プログラムを抑制する革新的がん遺伝子治療法の開発

【研究期間】 平成28年4月1日～平成30年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】 中村 教泰（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 University of California Los Angeles（アメリカ）

【相手方研究代表者】 Fuyuhiko Tamanoi（教授）

【事業概要】

siRNA デリバリーに適した生体分解性有機シリカ蛍光ナノ粒子の開発を行い、それを活用して siRNA 結合ナノ粒子を作製し、培養細胞を用いた *in vitro* の実験にてその有効性の評価を行うことを目標に研究を進めた。

【得られた成果】

新規のナノ粒子である有機シリカ粒子を活用し、siRNA の結合に適した表面構造を有するナノ粒子を作製した。また、がん転移、再発に関連するがん遺伝子に対する siRNA を作製した。さらにナノ粒子に搭載し、siRNA デリバリー蛍光ナノ粒子の作製も行った。

11月には University of California Los Angeles にて、がんナノテクノロジーに関する合同会議を行った。若手研究者を含めた交流を効率よく行うことができた。当初の参加メンバーに加え日本側、相手側ともに新たな参加研究者もあり、交流により国際連携の幅を広げることができた。

②【研究課題】 分子性金属酸化物と π 有機分子の電子系融合による分子性ナノ電子材料の創出

【研究期間】 平成28年4月1日～平成30年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（理学系）

【山口大学担当教員】 綱島 亮（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 グラスゴー大学（イギリス）

【相手方研究代表者】 Leroy Cronin（教授）

【事業概要】

分子性金属酸化物と π 電子系有機化合物をハイブリッドすることで、分子性金属酸化物の特異な分子形状に由来した電子・スピン状態を電気・磁気機能として引き

出し、次世代エレクトロニクス材料の基盤を形成することを目的にした日英共同研究を行った。

【得られた成果】

9月末から10月の初めにかけて相手国側研究者を訪問し、成果報告と今後について打合せを行った。相手国側研究者とは共著論文を1件発表した。また以下の3件の会議に出席し成果発表を行った。

- (1) ポリ酸の会議（イギリス）2016年7月7日～7月15日
- (2) ICMM サテライトミーティング（広島）2016年9月10日～11日
- (3) 日中誘電体会議（名古屋）2016年8月31日～9月2日

（2）外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

① **【研究課題】** 深海底におけるメタンハイドレートの長期生産可能な手法の開発

【研究期間】 2014年度～2016年度

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】 兵動 正幸（特命教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】 大連理工大学（中国）

【被招へい者】 LI Yanghui（講師）

【事業概要】

深海底におけるメタンハイドレート生産を模擬した模型実験および解析を実施し、生産障害要因を除去して高い生産性を確保するとともに、安全な生産手法を開発することを目的として研究を行った。

【得られた成果】

ガスハイドレート生産模型実験装置で、メタンガスの代わりに二酸化炭素を用いて、ハイドレート生成に伴う供試体各地点の温度変化を調べた結果、生成に伴う温度上昇を確認できた。また、ハイドレート分解実験では、分解に伴う温度の低下とガス圧の上昇を認めることができた。高圧平面ひずみせん断試験装置を用いて、加熱法によるハイドレート分解実験を行ったところ、加熱だけでは供試体全体のハイドレートの分解はできず、全体を分解するには下部から水流を加える必要があった。このことから、減圧法と加熱法の併用がガスハイドレート生産により有効であることが明らかとなった。

②【研究課題】メタンハイドレート長期生産時における海底貯留層変形の数値解析

【研究期間】2015年度～2017年度

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】兵動 正幸（特命教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】広島大学大学院（日本）

【被招へい者】WU YANG

【事業概要】

深海底におけるメタンハイドレートの濃集層の土は、細粒分を多く含み多様な粒度特性を有していることから、恒温高圧三軸試験機を用いて4種類の細粒分含有率の異なる砂にメタンハイドレートを生成させ、せん断実験を行った。

【得られた成果】

細粒分含有率が高いほど、メタンハイドレートによる固結力が高いことが明らかとなった。この結果に基づき、細粒分を有するホスト砂にメタンハイドレートが胚胎した土の簡易な構成則を作成した。また、ガス生産模型実験装置を用いてハイドレート分解実験を行い、ホスト砂の細粒分の影響も調べることができた。加えて研究成果を2件の雑誌論文、2件の国際学会にて発表した。

③【研究課題】ナノシート及びナノシートを基盤とする材料の光機能性：光学物性のチューニング

【研究期間】2015年度～2016年度

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（理学系）

【山口大学担当教員】川俣 純（教授）

【被招へい者旧所属機関名(国・地域名)】スロバキア科学アカデミー(スロバキア)

【被招へい者】Marian MATEJDES (研究員)

【事業概要】

無機ナノシートに取り込まれた有機化合物には、有機化合物単体のときとは異なる特異的な光学物性を示すものがある。本研究では、無機ナノシートの層間に光学物性を示す有機化合物とは別の物質を共有させることで層間環境をデザインすることにより、取り込まれた有機化合物の性質をチューニングできるようにすることを目指した。このことにより、有機物が持つ潜在的な特性を最大限発揮させ、優れた光学物性を持つ無機ナノシート-有機化合物ハイブリッド材料を創出するための礎を築くことを目的とした。

【得られた成果】

2016年度は無機ナノシートとして粘土鉱物を利用し、粘土鉱物の大きな特徴である膨潤/乾燥を利用することにより層間環境をスイッチングすることで、取り込まれた有機化合物の集合状態も連動してスイッチングさせる課題に取り組んだ。

また、無機ナノシートの層間には、有機化合物が無会合で、かつ高密度に取り込まれることが知られている。そこで、無機ナノシートの層間に有機ラジカルを取り込ませ、有機ラジカルが安定、かつ高密度に集積した集合体の実現を目指した基礎

研究にも取り組んだ。有機ラジカルは、潜在的に優れた光学特性、特に非線形光学特性を示すとさせている。本研究で導かれた成果は、今後、非線形光学材料としての展開が期待される。

④【研究課題】胎児期新生児の心肺・行動計測システムと介入法の開発

【研究期間】2016年度～2018年度

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】小柴 満美子（准教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】山口大学理工学研究科（日本）

【被招へい者】TAO TING

【事業内容】

長時間継続的に、胎児期新生児の心肺・行動情報を総合的に計測する装置を開発するため、生体音、および、環境音を微細に捉えることを目的する高精度マイクロフォンを有す騒音計を、新生児集中治療室に設置するインキュベータ内に設置し、継続記録を試みた。本装置が安全かつ有効に作動するように、本装置の安全確認は本研究開始前に3年間準備され、十分な安全性が事前に確保された。さらに、24時間医療観察の中で臨床試験を進めることができ、安全に実施された。

【得られた成果】

胎児齢期に早期に生まれた入院患者8名を主治医により無作為に対象候補とし、保護者に同意を得た確認の下に、1日から数日間の継続的記録を行った。生体の心肺音や行動音、医療従事者、父母の音声や医療介入に関わる環境音情報を包括的に記録した。容量の大きい同データに基づき、各種音を自動識別するために、周波数解析を行った。児の音声分析では、啼泣音声の自動識別のアプリケーション開発を進めた。また、環境音等の情報を識別することにより、児と環境との相互作用を調べ、児の感覚・運動機能を繋ぐ中枢神経系の認知機能発達の推定を目指し、各児の特徴や、個人差を超えた共通性の探索を続けている（こども環境学会北海道大会、恵庭市・2017年5月28日・ポスター発表（日本語）、国際行動ストレス学会、横浜市、2017年7月25日・口頭発表（英語））。

(3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】高速鉄道レールにおける突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価

【研究期間】2014年度～2016年度

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】合田 公一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】トルコ国鉄（トルコ）

【相手方参加者】SARIKAVAK, Yasin（研究員）

【事業概要】

高速鉄道レールに用いられるアーク突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価を目指し、2016年度は、SARIKAVAK氏を19日間（2017年3月13日～3月31日）受入れ、研究指導を行った。

【得られた成果】

2015年度は指導教員の所属する研究室に既存設備として設置されている疲労試験機（島津サーボパルサー）を用い、突き合わせ溶接レールの疲労試験を実施したが、2016年度も引き続き疲労試験を実施した。加えて、溶接部を含んだレールの長手方向における硬さ実験を実施した。その結果、溶接部外に比べて溶接部では硬さが大きく上昇することがわかり、特に溶接中央部で硬さが大きく変動することが明らかになった。関連の文献調査をしたところ、同じ突き合わせレールの長手方向における硬さ分布は本結果と同様な傾向を示すことを確認した。さらに、本研究ではレールの断面の場所によっても硬さが異なって現れることを新たに見出し、関連論文に比べてより詳細なレール内部の構造変化を解明することができた。またJRの鉄道総合技術研究所を訪問し、見学および関連研究者との討論を実施した。その結果、これまでに得られた研究結果の位置付けをより明確に理解できるようになった。今後は論文執筆活動をメール等で意見交換しながら進めていく予定である。

（4）研究拠点形成事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。

①【研究課題】 バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成

【研究期間】 平成26年4月1日～平成31年3月31日

【山口大学中心実施部局】 大学院創成科学研究科（農学系）

【山口大学担当教員】 山田 守（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 カセサート大学 [タイ側拠点機関]、ブラパ大学、チェンマイ大学、チュラロンコン大学、コンケン大学、モンクット王技術大学ラドクラバング校、モンクット王工科大学トンブリ校、マエファーラン大学、マハサラカン大学、メイジョ大学、マヒドン大学、ナレスアン大学、フラモンクットクラオ医科大学、ソクラ王子大学、ラジャマンガラ工科大学タウンオク、ラジャマンガラ工科大学イサン、ランパイパニ教育大学、ラムカンヘン大学、シーナカリンウィロット大学、スラナリー工科大学、タマサート大学、タクシン大学、ウボンラチャタニ大学、パヤオ大学、ワライラク大学、タイ科学技術研究所、バイオテック、生物多様性経済開発庁（以上すべてタイ）、ベルリンボイト工科大学 [ドイツ側拠点機関]、カントー大学 [ベトナム側拠点機関]、ハノイ国家大学、ホーチミン市技術大学、タイドー大学、タンタオ大学、ベトナム国家農業大学、ニュエンタットタン大学、

科学技術ベトナムアカデミーバイオテクノロジー研究所（以上すべてベトナム），ブラビジャヤ大学 [インドネシア側拠点機関]，マタラム大学，ハイルン大学，ベテランスラバヤ大学，ガジャマダ大学，技術の評価と応用庁，インドネシア大学（以上すべてインドネシア），ラオス国立大学 [ラオス側拠点機関]

【事業概要】

本事業には、日本、タイ、ドイツ、ベトナム、インドネシア、ラオスの大学等から約 200 名の研究者が参加し、5 つの研究課題を約 60-70 件の国際共同研究によって実施する。なお、マンチェスター大学（イギリス）の研究者が、将来拠点大学となることを目指し、日本側の研究協力者として参加する。本事業の積極的な活動を行うために、本事業メンバー全員が参加する「ジョイントセミナー」をタイと日本とで隔年開催し、成果報告や新技術紹介等を通じて積極的な情報交換を主眼として実施する。また、現地研究者との相互交流や事業の認知・拡大のために、「サテライトセミナー」をベトナム、ラオス、ドイツ、インドネシアで毎年輪番で開催する。さらに、学生を含む若手研究者育成の一環として「若手研究者セミナー」を日本あるいはタイで毎年開催する。加えて、「ワークショップ」や「国際会議等でのシンポジウム」等を開催する。

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

本事業の研究協力体制は既に整っている。昨年までと同様に、各共同研究グループから提出された年度計画書に基づいて、6月末までに、研究者交流の候補者や各セミナー参加候補者を7カ国のコーディネーター間でメールによって相談し、決定した。特に、研究者交流において、派遣希望者数の多いタイ側では業績や将来性を加味して候補者を絞り込んだ。また、各セミナーについてはリーダーから推薦された候補者の中から口頭発表者を決定した。ジョイントセミナー開催時にコーディネーター会議および組織委員会を開催し、残りの2年半の事業計画について意見交換を行うと同時に各国の問題点等を共有し、対策を協議した。特に、継続的な国際交流が重要との共通認識のもと、次の拠点事業申請に向けて研究テーマや目的について意見交換を行った。また、メンバー数の多い日本やタイでは国内の運営委員会を頻繁に開催し、スムーズな事業運営に努めた。一方、本事業では、各共同研究グループ内の意思統一のために英語による共同研究の年度計画書を作成し、さらに、それに沿って日本語の年度計画書を作成する。リーダーやコーディネーターはこれに基づいて、それぞれの国の支援機関に全体の年度計画書を提出し、本年度の活動を開始した。

世界的拠点形成に向けて、本事業から新たに加わったインドネシア、ドイツ、イギリスとの交流の強化を目指している。インドネシアはコーディネーターの働きかけによってインドネシアの研究・技術・高等教育省（RISTEKDIKTI）から研究グループに研究費が支援されるようになり、交流が加速すると期待される。ドイツは第4回サテライトセミナーの平成29年度開催に向けて、積極的な交流を開始し、

ベトナムへの研究者派遣やインドネシアとのエタノール発酵生産工場への技術協力を開始した。さらに、イギリスは日本およびタイの若手研究者2名をそれぞれ約1ヶ月受け入れ、先端的な共同研究を実施した。

2. 学術面の成果

昨年は中間年にあたり全体会議としてジョイントセミナーを開催し、個々の共同研究の達成状況等について報告した。これによって、本事業の重要な柱「我が国に無い熱帯性環境微生物の開発・利活用」について着実に進展していることが確認できた。また研究成果として、以下のとおり論文等を発表した。

本研究交流事業により発表された論文等

| | |
|-------------------------------|------|
| (1) 平成28年度に学術雑誌等に発表した論文・著書 | 68本 |
| うち、相手国参加研究者との共著 | 31本 |
| (2) 平成28年度の国際会議における発表 | 107件 |
| うち、相手国参加研究者との共同発表 | 71件 |
| (3) 平成28年度の国内学会・シンポジウム等における発表 | 55件 |
| うち、相手国参加研究者との共同発表 | 14件 |

3. 若手研究者育成

山口大学では、7名の博士と2名の大学院生、4名の学部生を受け入れ、3名の研究者を派遣した。また、前田健共同獣医学部教授が2名、薬師寿治創成科学研究科准教授が1名、山田守創成科学研究科教授が1名の博士課程学生を受け入れ、JST さくらサイエンスプランやJASSO 海外留学支援制度からも多数の大学院生及び学部生を受け入れた。

②【研究課題】衛星リモートセンシングによる防災・環境に関する

東南アジア研究・教育拠点の構築

【研究期間】2015年4月1日～2018年3月31日

【山口大学中心実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】三浦房紀（特命教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ウダヤナ大学 [インドネシア側拠点機関]、インドネシア航空宇宙研究庁、技術評価応用庁、国家防災庁、気象気候物理庁、測量地図庁、海洋水産庁、ブラビジャヤ大学（以上すべてインドネシア）、ハノイ農業大学 [ベトナム側拠点機関]、チュラロンコン大学 [タイ側拠点機関]、カセサート大学、アジア工科大学（以上すべてタイ）、東ティモール大学 [東ティモール側拠点機関]

【事業概要】

本事業では、山口大学がウダヤナ大学と連携して構築した、大学院連携システム（インターネットを利用した同時講義システム及び12科目の講義）を利用し、今

後の応用への期待が大きい衛星リモートセンシング技術の防災・減災，環境への応用研究の実施と専門家の育成を主眼とする『東南アジア研究教育拠点の構築』を目標とする。

具体的には，以下の2つの研究領域を対象とする。

(1)地震，風水害，火山に起因する

①土砂災害，②構造物被害，③津波，④洪水，⑤高潮，⑥地盤変状などの解析

(2)「海洋環境・気象」と「災害」との関係の解析

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

前年度に構築した研究協力体制（分科会），および3月にインドネシアを訪問して行った研究打ち合わせに基づき，研究を具体的に遂行している。H28年度は7月に地理空間情報庁（BIG）と国際交流協定を締結した。また，既存の山口大学及びウダヤナ大学との研究協力体制に，インドネシア以外の相手国の拠点機関の参画体制の構築を開始した。その具体的な結果として，タイ，およびベトナムからの留学生の受け入れをH28年度後期から開始した。

また，山口大学に「応用衛星リモートセンシング研究センター，Center for Research and Application of Satellite Remote Sensing 【CRASS】」をH29年2月1日に立ち上げた。このCRASSは，H29年2月9日に山口県宇部市に開所した「JAXA 西日本衛星防災利用研究センター」と連携して，災害発生時の対応，および防災・環境に関する国際共同研究，そして国際人材育成を行うものである。これまでの本学とウダヤナ大学の間を基本に，インドネシア国内の防災・環境関連機関，および東南アジアの国々，さらには南米（ペルー，チリ）の国々との協力関係の構築も始めている。

2. 学術面の成果

本年度は，国際共同研究を通じた研究成果が具体的に国際ジャーナルや国際会議プロシーディングの形で表れ始めた。発表された論文等は以下のとおりである。

本研究交流事業により発表された論文等

| | |
|-------------------------------|----|
| (1) 平成28年度に学術雑誌等に発表した論文・著書 | 7本 |
| うち，相手国参加研究者との共著 | 6本 |
| (2) 平成28年度の国際会議における発表 | 6件 |
| うち，相手国参加研究者との共同発表 | 4件 |
| (3) 平成28年度の国内学会・シンポジウム等における発表 | 9件 |
| うち，相手国参加研究者との共同発表 | 0件 |

研究テーマに関しては「衛星リモートセンシングの基礎的な技術に関する研究」で，山口県産業技術センターと，衛星データ解析の基本技術に関する共同研究（ビ

ッグ・データ解析，ディープ・ラーニング，データ・マイニング，高速処理など）を開始した。また，新しく南米のペルー，チリとの共同研究の可能性を開拓した。

さらには，これらの成果に基づき文部科学省の宇宙航空科学技術推進委託費に申請を行った。タイトルは，「大学院博士課程の国際連携による衛星リモートセンシング人材育成」。残念ながら採択には至らなかったが，引き続き研究拠点形成，発展充実につながる可能性のある公募事業への申請を行う。

3. 若手研究者育成

インドネシアからの博士後期課程の留学生 3 名，および本学若手助教が国際会議に出席，研究発表を行うとともにこの分野の世界の研究者との情報交換を行った。また，国際ジャーナルへ論文投稿し，論文作成スキルを磨いた。その結果およびこれまでの研究活動が結実し，インドネシアからの留学生 2 名が博士の学位を取得した。

また，当初 9 月に予定していた国際セミナーを 2 か月早め 7 月に開催した。国際セミナーおよび山口大学とウダヤナ大学間のプロジェクト会議では，既存の遠隔講義システムを利用したセッションを設け，ウダヤナ大学側には他国の大学院生も参加し，その地域の特色を活かした国際共同研究の可能性に関するディスカッションを行った。その時参加していた 2 名の学生（タイ，ベトナム出身）が，ダブル・ディグリーの学生として本学に 10 月から留学した。

第4章 2016年度の各部局の国際交流活動

人文学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・国際日本文化研究センター マルクス・リュッターマン准教授を招いて異文化講演会「一筆啓上-縁・間隔・断絶・交際の記号学を考える」 2016年6月23日

2. 学生海外研修の実施

- ・東呉大学への海外調査研修（台湾）に9名参加 2017年3月13日～17日
- ・エアランゲン・ニュルンベルク大学への語学研修（ドイツ）に2名参加 2017年3月1日～4月1日

3. 学生受入れプログラム等の実施

教育学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・「平成28年時代の文化を創造する新進芸術家育成事業」における「大学連携による地域文化の特色を活かした若手芸術家の育成2016」で国際的なアーティストの招へいを2回実施（招へいアーティストは以下のとおり）

西川勝人氏（ドイツ在住）2016年9月23日

JUMAADI氏（インドネシア国籍 オーストラリア在住）2016年11月29日～12月12日

- ・荒木一視教授主催による日中韓地理学会議の第11回目を札幌で開催 2016年9月11日～14日

2. 学生海外研修の実施

- ・カンボジアでの理科実験プロジェクト（カンボジア）に2名参加 2017年3月6日～11日

3. 学生受入れプログラム等の実施

経済学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・平成28年度観光政策 Informix・観光政策国際会議 2017年1月20日～21日

2. 学生海外研修の実施

- ・公共管理コース所属学生のグローバル人材養成教育（ベトナム）に9名参加 2017年3月8日～3月12日

・中国学生交流に 11 名参加 2016 年 12 月 10 日～13 日

3. 学生受入れプログラム等の実施

・ ABE イニシアティブ, PEACE プロジェクトで研究生として計 4 名受入れ 2016 年 10 月 1 日

・ [大学院経済学研究科] ABE イニシアティブで 1 名の受入れ 2016 年 4 月 1 日

・ [大学院経済学研究科] JDS, PEACE プロジェクトで計 12 名の受入れ 2016 年 10 月 1 日

理学部

1. 国際会議・講演会等の実施

・ 8th Mid-European Clay Conference, International Scientific Board, コシチュ(スロバキア) 2016 年 7 月 4 日～7 月 8 日

・ 国際研究集会「The Cut Locus: A bridge over differentiable geometry, optimal control, and transport」を主催, King Mongkut's Institute of technology Ladkrabang (タイ バンコク) 2016 年 8 月 3 日～8 月 6 日

・ 国際会議 Mathematical Progress in Expressive Image Synthesis 2017 を福岡で開催 2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日

・ モスクワ大学 Michael Tribelsky 先生(山口大学名誉博士)による, 学部生向けの特別講義(数学) 2016 年 11 月 21 日

2. 学生海外研修の実施

・ 理学部学生海外派遣プログラムにて, 下記の大学に派遣

全南大学(韓国)に学部生および大学院生 3 名 2016 年 8 月 18 日～8 月 24 日

台湾清華大学(台湾)に学部生 1 名 2017 年 2 月 21 日～28 日

フランス国立科学研究センター(フランス)に学部生 1 名 2017 年 2 月 27 日～3 月 9 日

台湾師範大学(台湾)に学部生および大学院生 10 名 2017 年 3 月 12 日～19 日

マヒドン大学(タイ)に学部生 3 名 2017 年 3 月 26 日～4 月 4 日

3. 学生受入れプログラム等の実施

・ 韓国全南大学の学部生 8 名を希望の研究室に受入れ実習を行う 2016 年 8 月 18 日～24 日

医学部

1. 国際会議・講演会等の実施

2. 学生海外研修の実施

- ・アジア・太平洋地域看護・健康科学リーダー育成連携（APAHL 事業）でニューイングランド大学（オーストラリア）に保健学科から 10 名派遣 2016 年 11 月 7 日～10 日
- ・医学科で 3 年次に開設している自己開発コースでアメリカに 7 名，イギリスに 1 名を派遣

3. 学生受入れプログラム等の実施

- ・医学部短期臨床実習プログラムにて慶尚大学（韓国）から医学科へ 2 名受入れ

工学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・第 4 回 SP!ED プログラム 2016 年 8 月 19 日～30 日
- ・第 3 回山口大学・ポルトガル 新リスボン大学・スペイン サラゴサ大学国際共同シンポジウム（ポルトガル 新リスボン大学）2016 年 10 月 26 日～27 日
- ・IEEE（米国電気電子学会）広島支部学生シンポジウム共催 2016 年 11 月 19 日～20 日
- ・大学生創成工学デザイン競技会 CEDC2016, 創成教育研究国際会議 ICIARE2016 を忠北大学（韓国）で共催 2016 年 12 月 22 日～24 日

2. 学生海外研修の実施

- ・平成 28 年度「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に基づき 114 名を派遣

3. 学生受入れプログラム等の実施

- ・宇部工業高等専門学校が行っているプログラムの一環として，ニューカッスル大学（オーストラリア）研修生（8 名），国立聯合大学（台湾）研修生（12 名）を受入れ 2016 年 7 月 13 日
- ・さくらサイエンスプログラムで江西師範大学（中国）から 10 名を受入れ 2016 年 11 月 14 日～23 日
- ・さくらサイエンスプログラムでブルリス大学（マレーシア）から 9 名を受入れ 2016 年 12 月 5 日～14 日
- ・さくらサイエンスプログラムでブラウイジャヤ大学（インドネシア）から 11 名を受入れ 2017 年 3 月 4 日～11 日

農学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・ TRE2016 分科会 CCP ジョイントセミナーを主催 The Centara Grand and Bangkok Convention Centre (タイ バンコク) 2016 年 8 月 18 日
- ・ 第 2 回重点連携大学セミナーを主催 チュラロンコン大学 (タイ バンコク) 2016 年 9 月 17 日
- ・ 在タイ日本大使館にて研究紹介セミナーを実施 2016 年 9 月 20 日
- ・ ワーゲニンゲン大学 (オランダ) にて植物科学に関する共催セミナーを実施 2016 年 10 月 3 日～5 日

2. 学生海外研修の実施

- ・ JASSO 平成 28 年度海外留学支援制度 (協定型) 採択プロジェクト「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」でタイ, インドネシア, ベトナムに 23 名を派遣 2016 年 8 月～9 月

3. 学生受入れプログラム等の実施

- ・ JASSO (SS: タイ, インドネシア, ベトナム, 台湾) から 24 名を受入れ 2016 年 10 月～2017 年 2 月
- 内訳: 大学院生 13 名 (中長期 12 名, 短期 1 名), 学部生 11 名 (中長期 7 名, 短期 4 名)
- ・ [大学院創成科学研究科 (農学系)] さくらサイエンスプランの支援により, タイ, ベトナム, インドネシアおよびバングラデッシュの国際交流協定校である 7 大学から, 大学院生 16 名を受入れ 2016 年 11 月 21 日～30 日

共同獣医学部

1. 国際会議・講演会等の実施

2. 学生海外研修の実施

- ・ JASSO 平成 28 年度海外留学支援制度 (協定型) 鹿児島大学共同獣医学部採択プロジェクト「ボーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム」で国立中興大学 (台湾) に 2 名派遣 2016 年 8 月 14 日～28 日
- ・ JASSO 平成 28 年度海外留学支援制度 (協定型) 鹿児島大学共同獣医学部採択プロジェクト「国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム」でジョージア大学 (アメリカ) に 1 名派遣 2016 年 8 月 13 日～28 日

3. 学生受入れプログラム等の実施

- ・ 馬の臨床希望学生への実習でミンダナオ中央大学 (フィリピン) から 1 名を受入れ 2016 年 6 月 21 日～29 日

・平成 28 年度台湾中興大学学生講義・実習プログラムで 2 名を受入れ 2016 年 8 月 22 日～9 月 4 日

国際総合科学部

1. 国際会議・講演会等の実施

・山口市地方創生カンファレンスを山口市、山口商工会議所と共催 2016 年 11 月 24 日

2. 学生海外研修の実施

・フィリピン短期語学研修に 103 名参加 2016 年 8 月 28 日～9 月 24 日

・フィリピン・インターンシップ（英会話学校 QQ English）に 8 名参加

前半：2016 年 9 月 4 日～2017 年 2 月 4 日 後半：2017 年 1 月 8 日～7 月 29 日

・美祢市とのプロジェクト型課題解決研究（PBL）に 7 名 2017 年 3 月 21 日～26 日

3. 学生受入れプログラム等の実施

東アジア研究科

1. 国際会議・講演会等の実施

・城下賢吾教授による東アジア国際学術フォーラム

「東アジアにおける医療制度の持続可能性」 2016 年 11 月 12 日

・東アジア学術講演会

31 回「韓国における国家教育課程改訂の方向性」

柳 芝英（韓国 春川教育大学） 2016 年 8 月 23 日

32 回「中国の日本語教育の現状と学習者の学習意識」

于 飛（中国 大連外国語大学） 2016 年 9 月 27 日

33 回 Developmnet of Creativity & Innovation in Public Sector Service

Dr. Musleh Uddin Ahmed（バングラデシュ ダッカ大学） 2016 年 12 月 7 日

34 回「苗族理辞と紛争の解決」

余 貴忠（中国 貴州大学） 2017 年 2 月 22 日

2. 学生海外研修の実施

3. 学生受入れプログラム等の実施

技術経営研究科

1. 国際会議・講演会等の実施

・MOT 国際シンポジウム (ISAME2016 in UBE) 開催 (山口県宇部市) 2016年6月16日

・MOT 国際シンポジウム (ISAME2016 in Malaysia) 開催 (マレーシア)
2016年11月28日～30日

2. 学生海外研修の実施

・YUMOT 短期海外派遣プログラム (マレーシア) に3名参加 2016年11月28日～12月1日

・グローバルエンジニア育成短期プログラムにて下記の大学に派遣
マレーシア工科大学 (マレーシア) に3名 2016年8月17日～9月7日
ジョクジャカルタ州立大学 (インドネシア) に2名 2016年9月12日～26日

3. 学生受入れプログラム等の実施

・ダブルディグリープログラムにより MJIT から学生1名受け入れ 2016年4月～2017年3月

連合獣医学研究科

1. 国際会議・講演会等の実施

・国際シンポジウム「The Collaboration Between Indonesia and Japanese Veterinary School」に参加 (インドネシア ボゴール農科大学) 2017年1月19日～20日

・国際シンポジウム「The 8th Joint Symposium of Veterinary Research in East Asia」に参加 (台湾 国立中興大学) 2017年2月19日～20日

・平成28年度 UVY フェロー事業によるセミナーの開催 Dr. Eva Nara を招いて学術講演会「Molecular Epidemiology Studies of Leishmaniasis」 2017年2月8日

2. 学生海外研修の実施

・第6回 International Conference and Exhibition on Nutrition (アメリカ テキサス州 サンアントニオ) に1名を派遣 2016年9月14日～16日

・Veterinary Cancer Society Annual Conference 2016 (アメリカ フロリダ州 オーランド) に1名を派遣 2016年10月20日～22日

・The 2016 American College of Pathologists and American Society for Veterinary Clinical Pathology annual meeting (アメリカ ルイジアナ州 ニューオリンズ) に1名を派遣 2016年12月3日～7日

3. 学生受入れプログラム等の実施

